

<視点>

主体的に学び、社会を生き抜く力をもった人材を育てます

(1) きめ細やかな教育・保育の推進と体制整備

		平成28年度													
取組・事業名	事業の概要	年度当初の現状 (課題等)	具体的な到達目標 (有るべき姿・望ましい状況)	行動目標	行動実績	到達目標の達成状況	内部 評価	内部評価根拠	外部 評価	H26	H27	H28	H29	H30	平成30年度末 達成目標
1	香美市0歳から15歳までの「子どもの育ちの指標」を明らかにし、発達段階に応じた適切な教育の推進 (学校)	めざす子ども像の明確化と目標の共有 ・子どもの「育ちの指標」の作成 ・「育ちの指標」による保育・教育の実施 ・保・小・中・高合同の研修会の実施	子どもの育ちの指標を周知するため、4月に教育機関および保護者に配布する。	育ちの指標を意識した保育・教育が行われる。	○教職員研修で、育ちの一覧表について、周知する。 ○校内研究や公開授業研究、指導案作成などで、育ちの一覧表を意識した協議を行う。	○全小中学校で、キャリア教育の視点を入れて指導案を作成し、公開授業研究を実施。(各学校1回以上)	3	○各小学校が、キッズチャレンジでの成果と課題について協議することができていた。	3	①	②	①	②	①	・0歳から15歳まで子どもの連続した育ちが確保されている。(アンケート検証) ・キャリア教育アンケートをはじめ各種の調査による値が向上する。 ・特に自尊感情の向上を示す値が継続して向上している
2	保小連携、小小連携、小中連携教育 (学校)	校種間連携、交流教育の推進 ・連携、交流教育の香美市の計画作成 ・目的を明確にした連携、交流学習の推進 ・保育所・小学校・中学校の連携推進	H27年度は特別支援教育に重点的に置き取り組んだ。異校種間の連携においては、各学校で小中連絡協議会を持ち、課題の把握ができています。	必要な情報が切れ目なく共有され、子どもの育ち等が後退することなく促進される	○ふるさとプログラムの実施(小小連携) ○外国語交流会の実施(小小連携、小中連携) ○子ども会議の開催(小中高大連携) ○各中学校区において、連絡協議会を引き続き開催し、具体的な取組計画を立て実施する。	○9月に全小学校3年生(約180人)を対象に龍河洞プログラムを実施。 ○11月に片地小と楠目小の2年生(約30名)がジャコアゲハ救出作戦で交流実施。 ○大宮小(6年生)と大橋小(5・6年生)大橋小(高学年)と大橋中(1年生)との外国語の交流 ○子ども会議の実施(小学生・高校生の実行委員32名)年間15回の会議を開催。 ○就学時引き継ぎシート23名作成。 ○専門家による研修を実施。(5園14回)	3	○9月の龍河洞ふるさとプログラムをきっかけに、小小連携がいろいろな教科の中で進んできた。 ○就学時引き継ぎシート要作成の園児は全て作成できた。保育士の気づきと保護者理解が進んだ。	3	校種間連携、交流教育の推進 ・連携、交流教育の香美市の計画作成 ・目的を明確にした連携、交流学習の推進 ・保育所・小学校・中学校の連携推進	・児童生徒の育ちの連続性を保障する小・小、小・中連携教育の実施が100%である。 ・小学校1年生、中学校1年生が円滑に新しい環境の学校生活に親しみ、落ち着いて学習できている。(100%)				
3	アプローチカリキュラム作成・実施 (学校)	児童生徒の円滑な教育の接続 ・保育、小学校でのアプローチカリキュラムの作成と、実施 ・保育所から小学校への接続を円滑にするために、園児と小学生、職員間等で交流をもち、ギャップを埋めるための就学前のカリキュラムを作成する	保幼小接続カリキュラムの策定なく保幼小接続が実施されているため、子どもの育ちがスムーズに継続されない。	保小間で共通したカリキュラムが実施される。	○保幼小連携の研修に参加する。 ○保小接続を意識した小学校との交流の実施	○夏期休業中に、プランニング研修の実施(保幼小の保育士・教職員約30名参加) ○夏期休業中に、小学校の教員が保育園や幼稚園に保育体験。(約40名・半日～1日) ○各小学校で、年長児との交流会を実施。	2	○昨年よりも年長児と小学生との交流は進んだが、カリキュラム作成まではできていない。	2	①	②	①	②	・全市の保育所で小学校への接続のためのアプローチカリキュラム作成(100%)し、実施している(100%) ・全市の小学校で中学校への接続のためのアプローチカリキュラム作成(100%)し、実施している(100%)	
4	スタートカリキュラム実施(小・中学校) (学校)	児童生徒の円滑な教育の接続 ・小学校、中学校でのスタートカリキュラムの作成と、実施	・香長小学校、舟入小学校でのスタートカリキュラムの作成。 ・鏡野中学校に、小学籍の教員を配属し、連携をスタートした。	・香長小学校、舟入小学校でのスタートカリキュラムの見直し、修正 ・鏡野中学校で、小中を意識したカリキュラムの作成	・小学校でのスタートカリキュラムの実施、見直し、作成する。 ・鏡野中学校で、小中連携を意識したカリキュラムを作成する	○教職員のスタートカリキュラムに対する意識調査(年2回、全小学校教職員) ○香長小学校、舟入小学校でスタートカリキュラム後の見直し、修正。 ○「総合的な学習の時間」を軸に、育てたい子ども像と香美市15年間の育ちの指標を意識した9年間のカリキュラムを作成中。(H28作成、H29検証・修正)	3	○小学校では、スタートカリキュラムの作成について少しずつ進んできたが、中学校のカリキュラムまでは進んでいない。	3	小	①	中	②	・小学校での実施100%(H27) ・小1プロブレムの発生0%(H30) ・中学校での実施100%(H29) ・中1ギャップの発生0%(H30)	
5	インクルーシブ教育の推進 ①支援体制の確立 (学校)	園内・校内支援体制の確立と推進 ・全ての子どもが「わかる・できる」授業の実施 ・高知県版引継ぎシートの活用	特別な教育的支援の必要な児童生徒の増加に伴い、よりきめ細やかな手立てと系統的な支援が益々必要	①個別の指導計画作成100% ②引き継ぎシートを利用して進捗する児童を増やす	①特別支援学級在籍児童生徒個別の指導計画作成率100%達成 ②全ての子どもが「わかる・できる」授業実施に向け、通常級学級担任・支援員の研修実施 ③特別支援学級在籍以外の児童生徒の個別の指導計画作成の推進 ④高知県版引き継ぎシート活用の推進 ⑤学校間連携コーディネーターの活用 ⑥小中連携した通級指導教室の活用を研究	○特別支援学級在籍児童生徒個別の指導計画作成率100%。 ○通常級担任への特別支援教育研修(各校3回)支援員対象研修(3回)特別支援学級在籍以外の要支援児童生徒への個別の指導計画作成率88% ○県版引き継ぎシートチラシの継続配布 ○学校間連携コーディネーターの活用(支援会議参加38回・関係機関との連携31回・研修会講師1回) ○通級指導教室の研究(研修7回・実践発表2回)	3	○個別の指導計画は作成できている。今後はさらに内容の充実を目指し、「合理的配慮事項」に記号をつけて明示することを徹底する。 ○引き継ぎシートの周知が進み、昨年度より引き継ぎシート利用者が増えた。H27年度36件→H28年度39件	4	①園内・校内支援体制の確立と推進 ②全ての子どもが「わかる・できる」授業の実施・高知県版引継ぎシートの活用	・個別の指導計画作成100% ・ユニバーサルデザインの観点に基づいた授業の実施100% ・全保育所での就学時引継ぎシートの利用(100%) ・全小中学校での支援引継ぎシートの利用(100%)				

<視点>

主体的に学び、社会を生き抜く力をもった人材を育てます

(1) きめ細やかな教育・保育の推進と体制整備

		平成28年度										平成30年度末 達成目標			
取組・事業名	事業の概要	年度当初の現状 (課題等)	具体的な到達目標 (有るべき姿・望ましい状況)	行動目標	行動実績	到達目標の達成状況	内部 評価	内部評価根拠	外部 評価	H26	H27	H28	H29	H30	
6 インクルーシブ教育の推進 ②高知県立山田養護学校との連携 (学校)	・県立山田養護学校との連携教育の確立と推進	以前より事業が利用でき始めたが、利用後の進捗状況の把握が不十分	定期的な情報交換が行われ、支援学校のセンター的機能が発揮される	香美市支援会議での連携教材研究・交流 居住地交流、実践交流事業の活用(特別支援教育学校コーディネーター研修・教頭会で周知) 就学相談・巡回相談等での連携 特別支援学校のキャリア教育研修参加	○香美市支援会議での連携(2回) ○保・幼・小・中・高・特別支援学校コーディネーター合同研修(1回) ○新任研修講師招聘(1回) ○居住地交流(2回) ○実践交流事業(2回) ○教育相談(80名) ○山田養護学校キャリア教育実践発表会(参加者11名:小中学校・教育研究所・教育支援センター・市教委)	○双方向的に情報交換が出来始めた。校種間のコーディネーターの交流ができた。 ○特に就学に関して、適切な助言をもらうことができた。	3	○連携事業や教育相談を計画的・効果的に利用でき始めた。	4						・全保育所、全小・中学校が特別な教育的支援についての研修や教育活動等で連携できた(80%以上)
7 インクルーシブ教育の推進 ③関係各機関と連携した研修と支援 (学校)	・香美市特別支援教育研修の実施 ・児童虐待に関する研修の充実 ・専門家による教職員支援 ・家庭支援員による家庭教育支援	アセスメント研修は定着してきた。研修後の進捗管理を行い、教職員のアセスメントスキル向上をめざす	合理的配慮についての理解を進める	全小中学校での校内研修実施 香美市特別支援教育研修会の実施 高知大学大学院発達障害教育演習開講(5年目) 巡回相談・教育相談。校内委員会への地域コーディネーター派遣事業の活用	○全小中学校で特別支援教育校内研修を実施。(2~6回) ○4月(管理職とコーディネーター)と8月(保・幼・小・中合同研修)に、合理的配慮について研修。 ○高知大学大学院発達障害教育演習(むすびネット)10回開講。(参加者:8回終了現在のべ85名) ○巡回相談のべ11回 ○中学校区特別支援教育連携事業実施(鏡野中・香北中学校区)	○発達障害等指導者実践講座新コースに3名派遣。ステージIIコースに2名派遣。平成25年度から継続的に派遣。 ○大柄中学校区の連携事業は平成29年度に計画済み。	3	○教職員のアセスメントスキルが向上し、支援の必要な児童生徒の発見が早くなった。(出現率7月末現在16.6%) (発達障害の診断及び詩大のある児童生徒出現率H27年度12.2%→H28年度13.0%) ○学校・家庭・地域ともに、理解の差を埋める取組が継続課題。	3						・保育所に家庭支援員(専任)を配置する(物部地区、香北地区、なかよし保育所あけぼの保育所に各1名、その他1名を配置できる) ・特別な教育支援は必要な子どもへの適切な対応ができる教職員の増加により、子どもの発達が保障される
8 インクルーシブ教育の推進 ④不登校対策 (学校)	子どもの学びを保証する取組 ・相談体制の充実 ・SSWの配置による児童生徒、家庭支援 ・香美市教育支援センターの充実 ・SCの配置による児童生徒、家庭支援	①コミュニケーション力不足 ②学力不振 この2つが不登校対応のキーポイント	小中学校とも長期欠席の数が前年度を下回る	全小中学校にSC配置 SC・SSW合同研修会実施(3回) 香美市子育て相談室「心ふおにー」継続 教育支援センター・市教委定例会(月1回実施) 研究所・SSW・市教委定例会(月2回) 香美市通級指導教室の充実 福祉事務所・健康介護支援課・教育支援センターの連携	○香美市内10校にSC配置。 ○SC・SSW合同研修会実施(学期ごと1回の予定→2学期はSC個別面談を実施。3学期は3月予定) ○香美市子育て相談室「心ふおにー」(毎週土曜日:12月末現在のべ257名利用) ○教育支援センター・市教委定例会(毎月第2水曜実施) ○研究所・SSW・市教委定例会(月2回実施) ○香美市通級指導教室利用児童生徒(23名) ○福祉事務所・健康介護支援課・教育支援センターの連携(香美市支援会議のべ70回)	○12月末現在の長期欠席児童生徒数【小学校:H27年度10名(出現率0.9%)→H28年度10名(出現率0.88%)】【中学校:H27年度22名(出現率4.16%)→H28年度34名(出現率6.61%)】 ○ <u>中学校の出現率は平成23年度12月の7.11%に迫る勢い</u> ○長期欠席児童生徒中、教育支援センターにつながっている人数(H27年度20名→H28年度28名)	2	長欠数が前年度を下回れなかった。 ○不登校対応のポイントを①コミュニケーション不足②学力不振と捉えていたが、③家庭支援が必要なケースの増加も増えてきた。	3						・小中学校とも出現率が全国平均値以下となる ・SC、SSWの配置が特別な教育的支援の必要な子ども、家庭10人に対し1人となっている
9 インクルーシブ教育の推進 ⑤いじめ対策・問題行動対策 (学校)	子ども、保護者の心に寄り添った取組 ・教育相談の充実 ・SC、SSWの配置によるきめ細かく継続的な児童生徒支援、およびその家庭支援 ・香美市教育支援センターの充実 ・Q-U検査活用による児童生徒の心の把握	小学校のいじめを認知するアンテナが高くなった。予防的視野での取り組みと初期対応・連携を重視した取組が増えた	いじめ解決100% 暴力行為の件数が前年度を下回る	育成センター・児童相談所等との連携 Q-Uを活用した児童生徒の状況把握と具体的な支援 Q-Uのより効果的な活用研修実施(3回) 保育コーディネーター・学校間連携コーディネーター・SC・SSWの効果的な連携	○育成センター・児童相談所等との連携(小学校いじめ事業:継続相談中) ○Q-U年間2回実施→活用研修を実施。(学期1回のべ45名参加) ○保育コーディネーターによる教職員対象のティーチャーズ・トレーニング実施。(夏期休業中3日間10名参加) ○SC・SSWの登校支援委員会・校内委員会への参加 ○教育相談員個別面談(学期1回)	○いじめ事業については、高知県人権教育課のSC緊急派遣事業及び緊急学校支援チーム派遣事業も活用。 ○小中学校12月まで累計いじめ認知件数(H27年度30件→H28年度47件)解消39件、継続支援中7件、転校1件。 ○暴力行為(H27年度17件→H28年度20件) ○いじめで警察に相談1件。虐待での通告4件。	2	○いじめ解決83%、暴力行為件数も前年度を下回れなかった。 ○小学校のいじめ認知件数中、継続支援件数が増えている。暴力行為も中学校は減少傾向だが小学校が増加した。	3						・いじめ解決100% ・「いじめはどんなことがあってもいけない」(100%) ・SC、SSWの配置が特別な教育的支援の必要な子ども、家庭10人に対し1人となっている

<視点>

主体的に学び、社会を生き抜く力をもった人材を育てます

(2) 活力ある保育所・学校づくりの推進

		平成28年度										平成30年度			
取組・事業名	事業の概要	年度当初の現状 (課題等)	具体的な到達目標 (有るべき姿・望ましい状況)	行動目標	行動実績	到達目標の達成状況	内部 評価	内部評価根拠	外部 評価	H26	H27	H28	H29	H30	達成目標
1 学校組織として教育活動を推進 (学校)	組織的に取り組む学校経営の推進 ・学力向上を核にした学校経営の実施 ・学力向上に向け、確実なPDCAサイクル化した教育実践 ・先進地の学校経営について学ぶ視察研修 ・高知工科大学・県立山田高等学校・県立山田養護学校と連携して進める学校経営 ・コラボレーション会議との連携による事業 ・学校関係者評価の実施	・学校経営計画を作成し取り組んでいるが、組織的な活動につなげていない学校がある ・学校関係者評価でA評価5項目中3項目以上の学校が6校 ・コラボ会議により、高校・大学との連携が進んできている	・チーム学校として組織的な学校運営ができていない。 ・学校関係者評価ですべての学校がA評価を5項目中3項目以上 ・コラボ会議発表による事業の推進と進捗確認を行う	○学校経営計画を全教員が意識して取り組む学校づくりの支援(教育事務所の指導) ○学校関係者評価委員との連絡や広報の支援 ○コラボレーション会議の実施 ・子ども会議(祭り・歌等)・コラボレーション会議 ・子どもの育ち長期調査 ・英語クラブ ・理科クラブ等	・2回東部教育事務所アドバイザーとともにすべての学校を訪問し、学校経営計画の作成・進捗確認・指導を行っている。 ・学校関係者評価の計画に沿った実施を行った。 ・コラボ会議を毎月実施し、各事業の進捗管理を行った。	・経営計画をもとにチームとして取り組む姿が、訪問によって確認できていない。 ・コラボ会議では、各事業の計画や成果の報告を行うとともに、新たな事業(プレゼンフェア、理科クラブ、外国語等)の確かな活動の報告がされている。	4	学校関係者評価は目標を達成できていない学校が1校だった。コラボでの活動は、充実してきている。	4						・学校経営計画と学校関係者評価のうち、「知」に対する評価が全小中学校で「A」目標以上に成果が上がっている」となる ・学力はH29「全国学力・学習状況調査」で小学校は国語算数とも全国進5ポイント以上、中学校国語は全国平均値以上、数学は平均値と同等またはそれ以上である ・高知県学力定着状況調査で小学校、中学校とも高知県平均値3ポイント以上である ・学力調査の全ての教科で0点が0人 ・中学3年生の進路確保100% ・香美市は「教育に力を入れているまち」という意識が香美市民(100%)、高知県民(70%)に認識されている ・各校の保護者、教職員等に対するアンケートで「香美市教職員は教育に力を入れて取り組んでいる」(80%以上)「各校種で連携した教育が行われている」(100%)となる
2 教職員に対する研修の充実 (学校)	香美市教職員総会・研究会(4月) 香美市教職員研修会(8月) 香美市保小中合同研修会(8月) 香美市教育研究会(年5回)	全体研修3回で、香美市の教育の方向性や課題を共有している。また、香美市教育研究会や各種研修会を通して、研修の充実を図っている。	8月の2回の研修会後のアンケートで、「実践に生かせる」が90%を超える。	香美市教職員総会・教育研究会(4月) 香美市教職員研修会(8月) 香美市保小中合同研修会(8月) 香美市教育研究会(年5回) 各種研究発表会(香美市内学校) 各種研修会(香美市内教職員対象)	○左記、研修会を予定どおり行うことができた。(参考)各種研究発表会 道徳教育研究発表会(舟入小) 外国語教育研究発表会(楠目小) 探究的な授業づくり研究発表会(山田小、片地小、香長小、鯉野中) アドバイザー派遣事業研究発表会(大宮小、香北中、楠目小、山田小) 学力向上モデル校研究発表会(香北中) ○香美市教職員研修会(8.4) 内容:コミュニティスクール実践発表、次期学習指導要領を踏まえた、香美市の教育のあり方について アンケート:「実践に生かせる」肯定的回答92% ○香美市保小中合同研修会(8.20) アンケート:「実践に生かせる」肯定的回答97%	香美市第2期キャリア教育の具体的な施策や次期学習指導要領の方向性を踏まえた研修を深めることで、香美市教職員全体で、香美市の方向性を確認することができた。8月の保小中合同研修会は特別支援教育のテーマが3年目だが、年々アンケート内容が充実し、研修成果を感じた。	3	各研修を予定どおり行うことができた。香美市内学校から可能な限り教職員が参加し、研修を深めることができた。8月研修会を対象とした意識調査において、到達目標を超えることができた。	3						・研修会後アンケートで研修内容が活用できると回答(100%) ・教職員参加率(100%)
3 管理職研修の充実 (学校)	校長会 教頭会 管理職(校長・教頭合同)研修	・校長はほぼ伝達が中心となっている。 ・教頭会の研修内容の充実 ・合同会は、平成27年度から実施できている。	・校長会や教頭会(育成型)の実施と内容の充実 ・校長、教頭合同研修の実施 ・保育園長を含めた合同研修の実施と内容の充実	○月1回の校長会、教頭会の実施(毎月) ○教頭会は、テーマによる研修(隔月) ○校長・教頭合同会(年1回)、校長・園長合同会の実施(年1回)、園長・校長・教頭会の実施(年1回)	・毎月校長会の実施。 ・隔月の教頭会の実施。 テーマ(教頭の役割、特別支援教育、教育長講話、私の学校づくりプレゼン、事務計画等) ・校長教頭合同会4月、園長との合同会8月、園長校長会1月(危機管理)を実施	・定期校長会は毎月実施できた。所管事項が主な議題となった。 ・教頭会は主幹教諭も含め、交流を中心に行った。より計画的で育成型の研修を進めた。やや課題に対応する研修内容の改善が必要。 ・合同研修会は、各園や校の交流により理解がすすんだ。	3	計画のもとに研修を行うことができた。	3						・国、高知県、香美市の教育計画、事業等について理解できた校長、教頭(100%) ・それに基づく学校経営の実施(100%)
4 中堅教員研修の充実 (学校)	研究主任等学校経営に関わる教員の育成 ・ミドルリーダー育成研修の実施 ・人間関係づくり、児童生徒理解研修の実施 ・特別支援教育研修の実施	研究主任には、学力向上に関して、キャリア教育担当にはキャリア教育に関して、学校経営参画の視点で実施している。	国・高知県・香美市の教育計画、事業等について理解し、自らの役割を果たしている中堅教員(70%)	研究主任会の充実(年2回) キャリア教育担当者会の実施(年3回) 道徳教育推進地区協議会の実施(年3回)	○温かい学級づくり研修として、Q-U(楽しい学校生活を送るためのアンケート)をいかに学級経営に生かしていればよいか5年次採用までの教員を対象に3回シリーズで実施できた。 ○キャリア教育担当者会の実施(小学校年間3回、中学校年間4回) ○研究主任会の実施(県2回、市2回) ○道徳教育推進地区協議会の実施(5回)	○キャリア教育担当者会は予定通り実施。 ○温かい学級づくり研修では、学級づくりリーダーを活用できた。また、コラボ調査の結果も反映させた。 ○道徳教育推進は、家庭・地域への発信と教科化に向けて計画的に進めた。	3	計画のもとに研修を行うことができた。	3						・国、高知県、香美市の教育計画、事業等について理解し、自らの役割を果たしている中堅教員(100%) ・人間関係づくり研修に参加し専門的知識を身につけている(100%) ・特別支援教育について学び、児童理解から支援方法まで理解し、実践できる(100%)

<視点>

主体的に学び、社会を生き抜く力をもった人材を育てます

(2) 活力ある保育所・学校づくりの推進

平成28年度															
取組・事業名	事業の概要	年度当初の現状 (課題等)	具体的な到達目標 (有るべき姿・望ましい状況)	行動目標	行動実績	到達目標の達成状況	内部 評価	内部評価根拠	外部 評価	H26	H27	H28	H29	H30	平成30年度 達成目標
5 小中連携教育の推進 (学校)	子どもの育ちについて中学校区での共有の場の設定 ①授業の進め方 ②家庭学習のシステム構築 ③基本的な生活習慣の確立における連携	各中学校区で実施されているが、校区によって開催や内容に差がある。	それぞれの中学校区で、重点課題について、小中学校で協議できる。	中学校区連携協議会の実施 育ちの一覧表の利用 公開授業(研究発表会)	○各中学校区にて、連携協議会を開催【鏡野中】8月5日、6日 「小中の円滑な接続について(学習面・生活面)」 *協議内容、取組内容については、後日文書にて各校で再確認した。 【香北中】8月5日 「中学校区の学力への取組について」 【大柘中】7月24日、2月3日 「小中の円滑な接続について(学習面・生活面)」 *「物部の生活」に作成(テレビ視聴時間、睡眠時間、家庭学習時間など) *「15年間を通した物部の子どもの姿」を作成	それぞれの中学校区において、重点課題について確認しあうことができた。また育ちの一覧表を参考に、小学校の出口、中学校の出口についても共有することができた。連携協議会の内容が充実している。	3	各中学校区において実施しているものの、取組内容の充実については開きがある。今後、各中学校区の取組を共有する機会を持ち、連絡協議会の充実を図りたい。	3						・中学校区の小学校と中学校の連携が十分にでき、「知」、「徳」、「体」で連携ができています。 ・児童生徒の目指す姿としては ・朝食を摂る児童生徒(100%) ・家庭学習 小学校 10分×学年+10分(100%) 中学校 60分×学年(100%) ・ゲーム(平日) 60分以下(100%) ・スマートフォン等の危険について理解している(100%) ・ネチケットを身につけている(100%)
6 教育研究所による 学校支援の充実 (学校)	研究活動の推進 ・キャリア教育 ・外国語活動 ・特別支援教育 学校支援推進 ・教職員育成 ・学力及び意識実態把握に関する調査及び分析 ・キャリア教育 ・特別支援教育	教育委員会と密に連携を図り、市の課題解決のために、具体的に取り組んでいる。	市の教育の充実振興及び教育の課題解決を目指す調査研究の推進に取り組んでいる。	・学力向上への取組(探究的な学習への授業改善) ・外国語教育の推進(保幼小中の系統性のある外国語教育) ・特別支援教育の充実及び長欠児童生徒減少のための取組(組織的な取組) ・学校訪問による学校教育支援	○学力向上への取組推進 各種調査分析 各校への調査結果提供 ○外国語教育の推進 各保育園や小学校を中心に、校内研等への支援 各校の交流会における、ALTや香美市在住外国人の調整 ○特別支援教育の充実及び長欠児童生徒減少のための組織的な取組 特別支援定例会(月2回) 教育支援センター定例会(月1回) 学校訪問による学校教育支援 調査結果の分析と提示(毎月の校長会)	○密な連携により早期の手立てや適切な対応がなされた。(支援会議等における外部機関との調整) ○学校負担の軽減(調査集計・分析・発信等) ○最新情報の提供がなされている。(書籍・教材・研修紹介等)	4	教育委員会との定期的な連絡会を開催し、常に連携を図りながら、香美市の課題把握、各学校の取組の進捗状況を確認し合い、学校への具体的な支援に努めた。	3	研究活動推進 ・キャリア教育(3つの柱) ・外国語活動、特別支援教育等 ・広報、啓発活動等 学校支援推進 ・教職員育成 ・学力向上への取組推進と支援 ・キャリア教育推進 ・特別支援教育推進				・教育研究所の定めた目標値を達成する	
7 保育職員の研修 (幼保)	・総合研修 ・部会ごとの研修 ・ティーチャーズ・トレーニング	研修回数等は確保されているが、マンネリ化した内容で実施している研修がある	研修内容のレベルアップ	○保育職員総合研修(4回) ○18部会に分散して研修(各4回) ○ティーチャーズ・トレーニング(8名、6回) ○県等の主催による研修会への参加	・保育職員総合研修(年4回実施) 実施日:4/5・8/20・10/29・1/14 ・保育職員18部会ごとの研修(各部会/年4回実施 述べ72回) ※内県主催の研修参加 20回 延べ188人参加 ・ティーチャーズ・トレーニング(11月⇒7名・4回、12月⇒7名・4回実施) ・県等の主催による研修会への参加(21回 述べ58人参加)	・研修実施回数は、計画通りであり、参加も多くある。また、ティーチャーズ・トレーニングは参加者の積極的な取り組みにより充実した研修を実施することができた。県等主催の研修会へも積極的に参加できた。内部研修の内容の充実等が引き続きの課題である。	3	研修回数等は確保されており、参加人数も多いが、マンネリ化している研修もある。	3	・保育職員総合研修(年4回) ・部会ごとの研修(18部会年各4回) ・ティーチャーズ・トレーニング ・県等の主催による研修会への参加				専門家による研修割合を増やす(50~75%程度)	
8 香美市子ども・子育て支援事業計画の実施 (幼保)	香美市における教育・保育及び子ども・子育て支援事業計画の充実のほか、母子保健事業、ひとり親への支援施策の展開等、子どもを取り巻く各種支援の包括的な整備に向けた計画を定める。	現場努力だけでは実施できない計画への取組みが課題	計画に沿った事業の実施	○事業の実施状況の確認・評価 ○計画の中の取組事業(一部) ・片地保育園0歳児保育受付開始(定員3名 ※4月入所の申込み無)	・事業の実施状況の確認・評価(H29.3月中旬に香美市子ども・子育て会議開催予定) ・計画の中の取組事業(一部)実施 ⇒片地保育園での0歳児受入は、4月の申込がなかったため実施できなかった。	・事業の確認・評価については、子ども・子育て会議を招集し、審議する予定である。 ・計画の中の取組については、マンパワーが必要な計画等は人材確保が課題である。	2	・子ども・子育て会議の招集が予定より大幅に遅くなった。 ・0歳児保育の途中受入れできる、保育士の確保が困難であった。	2	① 香美市子ども・子育て支援事業計画 ② ①計画の作成 ②計画に沿った事業の実施				計画書に基づいて事業が実施できている	

<視点>

主体的に学び、社会を生き抜く力をもった人材を育てます

(3) たくましく生きる人間力を培う教育の推進

		平成28年度													
取組・事業名	事業の概要	年度当初の現状 (課題等)	具体的な到達目標 (有るべき姿・望ましい状況)	行動目標	行動実績	到達目標の達成状況	内部 評価	内部評価根拠	外部 評価	H26	H27	H28	H29	H30	平成30年度 達成目標
1 学力向上プロジェクト事業 (学校)	学力向上プロジェクト ・大学教授、東部教育事務所等による研修 ・標準学力調査による到達度把握 ・学力向上支援員の配置 ・学力先進地視察実施 ・若年教員を育成するシステム構築と実施 ・研究主任会の充実 ・高知工科大学、山田高校生による学習ボランティア活動の推進	平成27年度「全国学力・学習状況調査」で、全国平均より小学校国+5.2P、算+4.6P 中学校 国-4.5P、数-8.8P 平成27年度高知県学力定着状況調査で、小学校は高知県平均より+0.2~+5.6P、中学校は-10.2~-1.4P	平成28年度「全国学力・学習状況調査」で、小学校全国平均値以上、中学校全国平均値と同等になる。 平成28年度高知県学力定着状況調査で、「国語、算数・数学の授業がよくわかる」という意識がH27年度以上となる。	○香美市アドバイザー派遣事業(大学教授の招聘) ○東部教育事務所等指導主事の招聘 ○研究主任会の充実 ○各事業における公開授業の実施	○香美市アドバイザー派遣事業における授業研究会の実施 教科:国(9月10月2月)、算・数(5月12月3月) 開催校:山田小、楠目小、大宮小、楠目小、大橋中 参加者:約30~50人 ○指導主事招聘による校内研(国・算)18回(東部教育事務所) ○研究主任会の充実 県学力向上研究主任会(2回) 香美市研究主任会(2回) ○各事業における公開授業研究会 探究的な授業づくり教育実践事業 山田小4回、鏡野中3回 学力向上実践モデル校 香北中学校1回	○平成28年度「全国学力・学習状況調査」(全国との差) 【小】国A 4.1p B-2.8p 算A 3.3p B-0.6p 【中】国A -0.3p B-0.3p 数A -9.1p B-8.3p ○平成28年度「高知県学力定着状況調査」(県平均2月公表予定) ○意識調査(授業がわかる) 【肯定回答 同一集団】 国89%(H27小6)→97.7%(H28中1) 算91%(H27小6)→98%(H28中1)	3	小中の円滑な学びの接続を意識し、教職員は研修を深め、実践に生かしている。また学力調査などを活用し、学力課題解決に向けたPDCAサイクルを、研究主任を中心に、各学校が計画的に回している。その結果、左記にもあるように、意識調査において小6から中1に進学した生徒の理解度の落ち込みはない。	3					学力向上プロジェクト ・大学教授、東部教育事務所等による研修 ・標準学力調査の実施(小1~中3まで) ・学力向上支援員の配置(山田小学校) ・学力先進地視察実施 ・若年教員を育成するシステム構築、実施 ・全小中学校への指導主事による指導 ・研究主任会の充実 ・高知工科大学、山田高等学校学生、生徒による学習ボランティア支援活動の推進	・学力はH29「全国学力・学習状況調査」で小学校は国語、算数とも全国値5ポイント以上、中学校国語は全国平均値以上、数学は平均値と同等またはそれ以上である ・高知県学力定着状況調査で小学校、中学校とも高知県平均値3ポイント以上である ・学力調査の全ての教科で0点が0人 ・中学3年生の進路保障100% ・H30標準学力調査(中学校2年)国語75% 数学70%が達成となる
2 中学校学力向上推進 (学校)	中学校学力向上推進 ・中学校教員の授業改善、研究授業実施 ・学力向上アドバイザー派遣(退職教員による若年教員指導と支援) ・数学、理科学力向上補助員の配置 ・高知県教育委員会作成シート活用促進 ・中学校5教科部会の活性化 ・山田高等学校との数学、科学クラブ連携	平成27年度高知県学力定着状況調査の高知県平均正答率との差(中学2年) 国語 +0.1 社会 -2.0 数学 -10.2 理科 -3.4 英語 -1.0	平成28年度高知県学力定着状況調査で、高知県平均値以上となる。	○香美市アドバイザー派遣事業(大学教授の招聘) ○東部教育事務所等指導主事の招聘 ＜学力向上モデル校(香北)・授業改善プラン(鏡野・大橋)の充実＞ ○学力向上教科アドバイザー配置(鏡野中) ○学力向上支援員の配置(鏡野中) ○中学校5教科部会及び	○香美市アドバイザー派遣事業 上記参照 ○指導主事による校内研等 学力向上モデル校(香北) 教科:5教科 回数:23回 授業改善プラン(鏡野・大橋) 教科:4教科(社を除く) 回数:8回 ○学力向上支援員の配置 ○中学校5教科部会 教科:5教科 回数:各5回	○平成28年度「高知県学力定着状況調査」(上記参照)	3	教職員は次期学習指導要領を視野に入れながら、また香美市の学力課題を意識した授業改善に努めている。	3					中学校学力向上推進 ・中学校教員の授業改善、研究授業実施 ・香美市学力向上スーパーバイザー派遣(退職教員による数学、理科、外国語科若年教員指導と支援) ・数学、理科学力向上補助員の配置(鏡野中学校) ・高知県教育委員会作成シート活用促進 ・中学校5教科部会の活性化、教育実践推進	中1から中2への学力の低下がない ・H30標準学力調査(中学校2年)国語75% 数学70% 社会70% 理科70% 外国語70%が達成となる ・H30全国学力・学習状況調査で数学は全国平均値以上となる ・香美市内全中学校生が山田高等学校入試に合格する学力を身に付けている(90%)
3 香美市チャレンジ塾 (学校)	各校区での子どもの学び場の整備 ・放課後子どもプランの実施	H27年度は、鏡野中で放課後等学習教室を実施。舟入小・片地小で放課後子ども教室を実施。他の学校では、教員やボランティアによる加力学習を実施。	平成28年度高知県学力定着状況調査で、小中学校とも高知県平均値以上となる。	○放課後子ども教室(舟入小・片地小) ○放課後等学習支援事業(放課後および長期休業中)をほとんどの学校で実施。	放課後子ども教室(舟入小、片地小) 放課後学習教室(鏡野中) 放課後等学習支援事業(放課後および長期休業中)をほとんどの学校で実施。	○平成28年度「高知県学力定着状況調査」(上記参照)	3	放課後子ども教室では、舟入小学校と片地小学校が積極的に活用し、学力向上につながっている。 放課後等学習支援事業については、大橋小学校以外の学校が実施しているが、開催回数に開きがある。	3					各校区での子どもの学び場の整備 ・放課後子どもプラン	・全小学校・中学校実施(100%) ・H30標準学力調査(中学校2年)国語75% 数学70% 社会70% 理科70% 外国語70%が達成となる H30全国学力・学習状況調査で数学は全国平均値以上となる
4 道徳教育の推進 (学校)	香美市道徳教育連絡協議会による道徳教育の推進 ・心のノート、ふるさとと志、高知の道徳の活用促進 ・道徳の授業の質、教員の指導力の向上 ・家庭、地域社会を巻き込んでの取組の実施	道徳の教科化に向けて各校年間計画や別業を改訂中 平成28年度道徳科指定校事業(舟入小)を推進校として推進強化	平成28年度全国学力学習状況調査質問紙で「難しいことでも失敗を恐れずに挑戦する」「学校の決まりを守っている」「人の気持ちが分かる人間になりたい」等の項目で平成27年度より高くなる	香美市道徳教育推進地区協議会(年間5回)「高知の道徳」「ふるさとと志」「私たちの道徳」の活用 香美市教育研究会道徳部会(小中学校研究授業)道徳参観日の実施(全小中学校) 平成27年度全国学力学習状況調査質問紙結果を毎年比較(広報香美で発信) 平成28年度キャリアアンケート結果を毎年比較(香美市道徳教育推進地区協議会・高知県道徳教育パワーアップ研修で報告)	○香美市道徳教育推進地区協議会(年間5回実施)「高知の道徳」「ふるさとと志」「私たちの道徳」に加えて「道徳教育指導資料集」も活用できた。(年度末道徳調査より) ○道徳科指定校(舟入小)全学年公開授業。県外研修(2回)先進校視察(6回) ○香美市全小中学校道徳参観日実施。○道徳意識調査結果を、香美市道徳教育推進地区協議会・高知県道徳教育パワーアップ研修で報告。どう研修会で舟入小実践発表。 ○第2期道徳教育推進リーダー1名認定。○道徳だよりの地域発信。	平成28年度全国学力学習状況調査質問紙(H27比較) ○「難しいことでも失敗を恐れずに挑戦する」小:-9.5 中:+13.9 ○「学校の決まりを守っている」小:+0.4 中:-2.4 ○「人の気持ちが分かる人間になりたい」小:+2.4 中:調査なし	3	○道徳科指定校の舟入小学校がリーダーシップをとって、研究推進できた。次年度は小学校教科書が選定されるため、香美市道徳教育推進地区協議会が中心となって、年間計画と別業のベースを作る。	3					・香美市道徳教育連絡協議会による推進 ・心のノート、ふるさとと志、高知の道徳活用推進 ・道徳の授業の質、教員の指導力向上 ・家庭、地域社会を巻き込んでの取組の実施	児童生徒の意識調査で「難しいことでも失敗を恐れずに挑戦する」「人の気持ちのわかる人になりたい」「決まりを守る」「人の役にたつひとになりたい」等の児童生徒の意識が全国学力・学習状況調査で、小学校6年生中学校3年生ともH25年度より高くなる
5 人権教育の推進 (学校)	いじめ防止サミットへの積極的な参加支援 ・人権参観日の実施支援 ・学校における家庭、教職員の研修実施支援	児童生徒の自尊感情値の低い傾向である 小学校:83.3(全国76.4)+6.9P 中学校:68.1(全国62.5)+5.6P	児童生徒の自尊感情値を小学校2P、中学校1.5P上げる	・児童会・生徒会交流集会への意欲的な参加支援 ・人権参観日の講演会支援	○児童会・生徒会交流集会への参加(全小中学校) ○人権参観日への支援	平成28年度全国学力学習状況調査質問紙(全国比) ○「自分には良いところがあると思いますか。」小:74.4(全国76.3)-1.9P 中:72.2(全国69.3)+2.9P	3	○小学校は昨年度よりも-1.9P下がったが、中学校は、昨年度よりも2.9P上がった。	3					児童生徒の意識の自尊感情に係る部分の向上 ・全国学力・学習状況調査で小学校6年生、中学校3年生とも全国値以上となる ・高知県キャリアアンケートでは「自尊感情」に係る全国平均値がH26より年々向上する 「自尊感情に係る」項目評価では高い肯定的評価の割合が増加する ・いじめは「どんなことがあってもだめだ」とも回答(100%)	

<視点>

主体的に学び、社会を生き抜く力をもった人材を育てます

③ たくましく生きる人間力を培う教育の推進

		平成28年度									
取組・事業名	事業の概要	年度当初の現状 (課題等)	具体的な到達目標 (有るべき姿・望ましい状況)	行動目標	行動実績	到達目標の達成状況	内部 評価	内部評価根拠	外部 評価	H26 H27 H28 H29 H30	平成30年度 達成目標
6 図書館教育の推進 (学校)	学校や家庭、地域における読書活動の推進 ・香美市子ども読書活動推進計画の推進 ・学校図書館の整備 ・図書支援員の配置 ・図書支援員の資質向上研修の実施	○図書支援員の配置により、図書室が整備され、小学校を中心に効果がでている。 ○学校図書館の授業への活用は、学校によって差があるものの、活用の頻度は高まりつつある。 ○子ども司書93名 (H23'27) 17名/1636名(H27) 1%	○図書支援員が全小学校に配置されている。 ○教科書に取り上げられている図書が整備されている。 ○子ども司書の資格所有者が20%を超えている。	○図書支援員の配置 ○図書支援員の研修(教員と合同の研修も実施) ○子ども司書講習の実施	○図書支援員の配置 香美市内小中学校 5名 ○図書支援員研修の実施 実施回数:6回 (図書担当教員との合同研修2回を含む) ○学校図書館の整備(鏡野中) ○子ども司書講習会の実施	○図書支援員は、小学校での勤務日数が多いが、週1回は中学校で勤務ができています。 ○鏡野中学校の学校図書館において、図書館協議会の方の監修のもと、書籍の整理や一部改修工事を実施した。 ○子ども司書資格保有者23名	4	○各教科での学校図書館の活用が高まり、子どもの学びが深まっている。 ○図書支援研修において、先進地視察(越知町)や、図書館が整備された鏡野中学校を会場に講師の方をお招きして講習会など、充実した研修を行うことができた。	3	学校や家庭、地域における読書活動の推進 ・香美市子ども読書活動推進計画推進 ・情報センターとしての学校図書館の整備 ・図書支援員の配置 ・図書支援員の資質向上研修の実施	図書支援員の全小学校に配置されている(小学校100%) ・各校の学校図書館に図書専用PC、電子黒板が整備されている ・子ども司書の資格所有者が全児童生徒の30%を超えている ・教科書に取り上げられた図書が整備されている
7 体力の向上 (学校)	健康的な生活を送るための運動習慣を確立する。 ・運動の習慣化に対する支援	昨年度全国体力調査、小学5年生はA~E段階評価でC評価以上の児童の割合が男女共に全国2位相当、中学2年生は男女共に10位との差が約7%相当。	体力の値が男女とも平成27年度を上回る 健康な生活を送るための運動習慣がついている(60%以上)	新・高知のこども体力アップアクションプランの活用 運動部活動サポート事業の活用 体力・運動能力テストを香美市全児童生徒が実施 (テスト実施の際にベストパフォーマンスが発揮できる工夫の研究)	○新・高知のこども体力アップアクションプラン活用(補目小) ○運動部活動サポート事業活用(大橋中) ○体力・運動能力テスト全児童生徒実施。(効果的な取組モデルとして補目小学校が県発表)	○体力値:平成27年度→平成28年度(中2男子のみ前年度を上回る) ○全国体力調査A~E評価でC評価以上の児童生徒の割合が、全国10位と比べて小5男子(-13.4)女子(-3.3)中2男子(-10.9)女子(-6.3)低かった。 ○健康な生活を送るための運動週間がついている児童生徒の割合(1週間の運動時間420分以上51.7%)	3	目標値を超えることは出来なかったが、今年は女子の数値に改善傾向が見られた。前年度低かった中学2年男子の体力値を伸ばすことができた。	3	健康な生活を送るための運動習慣を確立する取組 ・運動の習慣化に対する支援 ・地域人材活用支援	・体力の値が男女とも全国平均値以上となる ・健康な生活をおくるための運動習慣がついている(80%以上)
8 健康な生活の推進 (学校)	児童生徒の基本的な生活習慣の確立を図る取組 ・基本的な生活習慣の確立推進 ・体力と健康、食育を関連させた取組の推進	痩身傾向の小中学生出現率は、全国・県に比べて同等または低い傾向で小2小3は0%。中3が3.45%と全国・県より高い傾向。肥満傾向は高学年になるほど全国・県に比べて高く、特に小5の12.77%と中2の11.48%が高い。	早寝・早起き・朝ごはん・朝うんち定着(香美市食育推進計画の目標数値を達成する)	小学生「生活リズムチェックカード」の活用 健康教育教材「よりよい生活習慣のために」を全小中学校で活用 低学年用家庭で学ぶフリープレットの活用 体育・健康アドバイザー事業の活用 香美市食育ハンドブック(中学校版)の活用	○小学生「生活リズムチェックカード」の活用 ○健康教育教材「よりよい生活習慣のために」を全小中学校で活用 ○低学年用家庭で学ぶフリープレットの活用 ○香美市食育ハンドブック(中学校版)を、保健体育・家庭科・給食指導・委員会活動・JA女性部との連携実習等で使用。塩分濃度計を使った測定等、学習内容を深めることができた。	○朝6時半までに起きる子の割合が中学2年生は目標値60%以上を達成しているが、小学5年生は70%以上を未達成。 ○就寝時間は小中学校ともに目標値を達成。 ○毎日朝ごはんを食べている人の割合が前年度より小中学校ともに増えているが、目標値の95%には至っていない。 ○毎日の排便は小学校17.5% 中学校20.7%	3	今年の小学5年生と中学2年生は、どちらも肥満傾向が強く、体力調査が厳しかった。教材活用の工夫や、体育・健康アドバイザーの助言を生かしながら取り組んだ。	3	香美市食育推進計画 児童生徒の基本的な生活習慣の確立を図る取組 ・基本的な生活習慣の確立推進 ・体力と健康、食育を関連させた取組の推進	・早寝・早起き・朝ごはん・朝うんち定着(平成24年度~H29年度実施香美市食育推進計画の目標数値を達成するがそれ以上)
9 キャリア教育の推進 (学校)	キャリア教育の推進 ・キャリアチャレンジデイ、キッズチャレンジデイの実施 ・キャリアの講師を招聘しての講演会 ・教職員、家庭、地域に対する研修会の実施	・土曜授業の実施 ・15年間を見通した「めざす子どもの姿」を使用した指導案作成	・学校独自の特色ある土曜授業の実施 ・各中学校区での「めざす子どもの姿」について協議、検討	・土曜授業の実施、内容の充実 ・キャリアの教育の視点を入れた指導案作成	○全小中学校で、キャリア教育の視点を入れて指導案を作成し、公開授業研究を実施。(各学校1回以上) ○全教職員対象の研修で、キャリアの講師を招聘しての講演会(8月、約300人) ○キャリアチャレンジデイの実施(10月、生徒約320人、ボランティア約150人) ○キッズチャレンジデイの実施(11月~12月)	○全小中学校で、キャリア教育の視点(育ちの指標)を入れた指導案の作成。 ○キッズチャレンジデイ等で、キャリア教育の視点を意識した授業を実施。	3	昨年度までのキャリア教育の取組が各学校に定着してきた。	3	県 市 キャリア教育の推進 ・キャリアチャレンジデイ ・キッズチャレンジデイの実施 ・キャリアの講師を招聘しての講演会 ・教職員、家庭、地域に対する研修会の実施	・H27年度は高知県教育センター作成キャリアアンケートの指標のうち香美市平均値が「働くへの愛着」3.46以上 「自己理解・自己管理」3.18以上 「課題対応能力」3.05以上 ・H30年度は香美市版キャリア指標を作成し、目標値を達成する、またはそれ以上 ・キャリアチャレンジデイ、キッズチャレンジデイ継続

<視点>
市民が協働し、ともに支え合い、高め合う地域社会を築きます
(1) 香美市のたからを活かしたふるさと教育の推進

平成28年度											
取組・事業名	事業の概要	年度当初の現状 (課題等)	具体的な到達目標 (有るべき姿・望ましい状況)	具体的な取り組み(計画・実施)	行動実績	到達目標の達成状況	内部 評価	内部評価根拠	外部 評価	H26 H27 H28 H29 H30	平成30年度末 達成目標
1 香美市社会科副読本活用推進 (支援員配置) (社会教育施設の活用) (学校)	香美市社会科副読本の活用 ・ふるさとプログラム支援員配置 ・テスト、指導書、電子版作成	香美市社会科副読本改訂版作成	香美市社会科副読本改訂版テストの見直し、作成	・香美市社会科副読本改訂版テストの見直し、作成 ・B問題に対応したテストの追加	○年間6回の社会科副読本編集委員会を実施(5/20、6/30、8/15、9/27、11/25、1/26)。 ○テスト問題の改訂 ○副読本電子版の作成。	○テストは、問題形式を選択式、短答式、記述式のバランスを見直し改訂を行った。テスト内容・掲載資料については、学習指導要領、教科書等に依拠したもの、児童の発達段階に合ったもの等の視点から改訂を行った。 ○副読本電子版は、データを全小学校に配布。	4	テストの改訂が完了した。編集委員は、テスト問題、副読本の内容を見直す過程において、社会科の教材研究、教材開発への知見を深めた。副読本の電子版は全ページ完成。	4	香美市社会科副読本の活用事業 ・ふるさとプログラム支援員配置 ・テスト、指導書、電子版作成	・児童生徒の意識「私は自分の住んでいるところが好きだ」 (H26年 56.1%→H30年 70%) ・電子版「社会科副読本」が作成できた
2 香美市ふるさとプログラムの実施 (学校)	香美市ふるさとプログラム ・香美市ふるさとプログラムの作成と実施 ・香美市の社会教育資源の積極的活用	・香美市ふるさとプログラムの実施	・香美市ふるさとプログラムの充実	・地域学習の中に、香美市ふるさとプログラムを取り入れ実施	○9月に全小学校3年生(約180人)を対象に龍河洞プログラムを実施。 ○11月に片地小と楠目小の2年生(約30名)がジャコアゲハ救出作戦で交流実施。 ○小学校で、社会科や総合的な学習の時間の中で香美市の社会教育資源を活用。	○各小学校で、香美市の社会教育資源を活用した取組について実践を報告。実践事例集として冊子の作成。	4	各学校の実践事例集を冊子にし、配付することでさらに地域を知ることができる。	4	香美市ふるさとプログラム ・香美市ふるさとプログラムの作成と実施 ・香美市社会教育資源の積極的活用 (龍河洞、吉井勇記念館等の活用)	・香美市の教育資源を活用した学習ができた(中学校卒業)龍河洞(100%) 吉井勇記念館(100%) アンパンマンミュージアム等香北地区(100%) ほかに香美市の特産品(打刃物等)高知工科大学等 ・児童生徒の意識「私は自分の住んでいるところが好きだ」 (H26年 56.1%→H30年 70%)
3 ・香美市の森の学習 (山の学習) (学校)	香美市山の学習 ・森林、物部川学習の推進 ・「山の学習事業」の積極的活用	「山の学習」事業、実施10校	「山の学習」事業、香美市内全小中学校実施	「山の学習」事業、香美市内全小中学校実施	○香美市内全小中学校が、事業実施計画に基づいた取組を行った。	全小中学校において、生活科や総合的な学習の時間に事業計画書に基づいた学習が行われている。山の自然に親しむ、森林の働きを学ぶ等、各校とも香美市の特色や子どもの発達段階に応じた学習を行っている。	4	間伐作業やシカ食害対策等の体験的な学習を通して、児童生徒の森林保全への関心が高まっている。香美市内全小中学校が事業計画書に基づいて実施することができたが、活動が単発なものになっている学校もある。	4	香美市山の学習 ・森林・物部川学習の推進 ・「山の学習事業」の積極的活用	・香美市森林学習、児童生徒体験(100%) ・香美市の山に登ったことがある。(100%) ・物部川で活動したことがある。(100%)
4 ・香美市小中学校子ども議会 (毎年実施) (学校)	○香美市子ども議会の開催 ○香美市子ども議会の開催	香美市子ども議会実施予定	香美市子ども議会実施、そこから実施する活動の充実	・香美市子ども議会実施(1回) ・香美市子ども議会からの活動(香美市子ども祭り実施・香美市の歌の普及)	○5月に子ども議会の実施(全小中学校・高等学校・教職員・保護者等約90名参加) ○香美市の歌(子どもバージョン)の作成、10回 ○子ども祭りの計画実施(15回) ○子ども議会新聞の作成(4号発行) ○図書館会議への参加 ○図書館視察(17名参加)	○5月に子ども議会の実施(全小中学校・高等学校・教職員・保護者等約90名参加) ○香美市の歌(子どもバージョン)の作成、10回 ○子ども祭りの計画実施(15回) ○子ども議会新聞の作成(4号発行) ○図書館会議への参加 ○図書館視察(17名参加)	4	それぞれのチームに分かれて話し合いを行い、活動を実施。日を重ねることに実行委員同士の交流もよくなってきた。	4	・香美市子ども議会の開催(香美市について自分ができること等を話し合う会議) ・香美市子ども議会の開催(香美市議会子ども版)	・子どものまちづくりへの参画意識向上 ・年間2回の会議が定期的に行われ、子どもたちの提言で有用なものは採用している
5 食育の推進 香美市食育推進計画 (学校)	健康と食を関連させた食育推進 ・健康と食を関連付けた教育実践の取組	香美市全体で食育推進(減塩啓発を継続)	香美市食育推進計画指標の達成	香美市学校食育推進事業実施 実行委員会(3回) 推進校:大宮小・香北中・楠目小・大橋小 香美市食育ノートを全小中学校で活用 香美市食育ハンドブック(中学校版)活用 香美市食育内検討委員会(3回) 栄養教諭の活用 ヘルスマイト・JAとさかみ女性部との連携(調理実習) 減塩啓発講演会	○香美市学校食育推進事業実行委員会(3回実施:推進4校出席) ○香美市食育ノート・食育ハンドブック活用(全小中学校で活用:活用調査実施→活用場面を共有) ○香美市食育内検討委員会(3回実施) ○栄養教諭の活用(図書館活用型研究大会で実践発表・調理実習衛生管理チェックリストの作成・外部団体との調理実習) ○減塩啓発講演会(6.24大宮小)	○夕食を家族と週5日以上一緒に食べる割合85%以上を小中ともに達成。 ○香美市の農産物を知っている割合の目標値が80%以上で、小学5年生は77.8%と前年度65.0%よりかなり改善された。	4	○養護教諭・栄養教諭・家庭科担当の連携が取れ始めた。中学校で朝食レシピを配布したり、外部機関との連携が出来始め、生徒だけでなく保護者への意識づけにもなった。	4	健康と食を関連させた食育推進 ・健康と食を関係付けた教育実践の取組	・香美市の児童生徒、家庭、教職員の健康に対する意識の向上、および健康を示す数値の向上 ※◎香美市食育推進計画指標達成
6 香美市防災教育の推進 (学校)	防災教育の推進 ①防災・減災の知識の確立 ②危険回避できる力の要請 ③避難行動 ④災害時に役立つ情報と防災活動に積極的に参加	年3回以上の避難訓練と、各学年5時間以上の防災学習を全学校が実施できている。	地域を巻き込んだ防災学習や避難訓練の実施。	○地域を巻き込んだ防災学習や避難訓練の実施。	○各校が学校安全計画通り、火災・地震・不審者対策と工夫した訓練を実施できた。炊き出しや引渡しなど、家庭・地域と協力した訓練や、予告なしのショート訓練も実施している。 ○山田高等学校の防災キャンプに、山田小学校の児童が参加する等、地域内で交流した取組が進んだ。	○キッズチャレンジデーや参観日を活用し、地域やPTAとともに防災教育に取り組むことができた。 ○山田高等学校の防災キャンプに、山田小学校の児童が参加する等、地域内で交流した取組が進んだ。	3	○コミュニティースクールのスタートと共に、家庭・地域と連携した防災学習や避難訓練が出来始めている。	3	防災教育の推進 ①防災・減災の知識の確立 ②危険回避できる力の養成 ③避難行動 ④災害時に役立つ情報と防災活動に積極的参加	・①から④までの力が習った児童生徒に身についており、災害時に自助、共助の行動がとれる(100%)

<視点>

市民が協働し、ともに支え合い、高め合う地域社会を築きます

(2) 子育て支援と親支援の推進

		平成28年度										平成30年度末 達成目標			
取組・事業名	事業の概要	年度当初の現状 (課題等)	具体的な到達目標 (有るべき姿・望ましい状況)	具体的な取り組み (計画・実施)	行動実績	到達目標の達成状況	内部 評価	内部評価根拠	外部 評価	H26	H27	H28	H29	H30	
1 香美市教育の日 地域の人々を学校へ (学校)	香美市教育の日推進 ・「教育の日」への講師派遣支援 ・「教育の日」の取組等、情報発信支援 ・「教育の日」の体験活動支援	毎月20日は、「教育の日」を実施している。	「教育の日」や、参観日、学校行事等に、保護者や地域の方が参加する。	○「教育の日」の市内への広報 ○地域の方が参加できる学校行事等を、市内に広報する。	○広報に「教育の日」のお知らせや、各学校の行事等を掲載した。	○地域の方々の学校行事等への参加数(12月まで) *以下コミュニティスクール及びコミュニティスクール設置推進委員会(2年目)の実績(のべ人数) 【片地小学校】171名 【大柘小学校】153名 【大柘中学校】276名	4	広報だけではなく、コミュニティスクールや地域本部支援コーディネーターの働きもあり、保護者や地域の方々が積極的に学校に関わってくれている。	3	 香美市教育の日推進 ・「教育の日」への講師派遣支援 ・「教育の日」の取組等、情報発信支援 ・「教育の日」の体験活動支援					参加者の増加 保護者だけでなく、地域の人の参加も増加している ・教育の日の質の向上 参観するだけでなく、ともに学びあう場がある ・学校の役割の情報発信と啓発 地域に学校が取り組んでいることを充分に発信することができている
2 子育て専門家支援 家庭支援推進事業 (幼保)		子育てを支援する上での専門家や支援員の増員が内外で求められている。	支援を必要とする人が支援を必要とするとき、十分な対応ができる体制をつくる	○特別支援保育コーディネーターの配置(2名(予定)) →現在1名配置しているが、もう1名については現在 欠員状態で適任者を募集中 ○家庭支援員の配置(2名) →クラス担任は持っていないものの運番任務があるため、家庭支援に専念できる時間が限られる	・特別支援保育コーディネーターを1名配置。支援を必要とする人に、対応をする手助けができた。 ・家庭支援員(保育士)をなかよし保育園、あけぼの保育園に各1名配置	・特別支援保育コーディネーターを今年度2名の予定であったが、適任者が見つからず、人員的には現状維持となった。 ・家庭支援員を2名配置することができたが、家庭支援に専任する時間が限られている。	3	特別支援保育コーディネーターの業務は積極的に行ってくれており、成果は上がっていると思うが、1名体制では限界があるため人材確保が必要である。また、家庭支援の保育士も家庭支援業務の専任として配置できていない状況が課題。	3	 子育て専門家支援家庭支援推進事業 ・専任家庭支援員配置、相談活動の充実 ・子どもの成長を見取る専門家派遣 ・保護者、保育士対象研修会実施 (食育、子どもの発達、躰、特別支援等)					・専任家庭支援員を全国に配置に増加 ・早期に子どもの状態を見取り、適切な支援ができていく ・保護者の支援ができていく
3 子育てひろば (幼保)	子育て親子の交流の場の提供と交流の促進を目的に子育て支援センターで子育てひろばを開催している。		子どもの発達や年齢に応じた遊びや子育ての知識などを提供する。子育て家庭の交流を促す。	○子育てセンターなかよし(なかよしひろば)月～金 ○子育てセンターびらふ(にこにこひろば)月～金 ○乳児健診でちらしを配布 ○新規利用者には子育てひろば登録票にてアンケートを実施(随時) ○子育てひろばを利用している保護者を対象にニーズ把握のため一定期間アンケートを実施(H28.7月、H29.1月予定) ○他市町村の子育てひろばの視察	○子育てひろばを開催(月～金) なかよしひろば 180回開催 にこにこひろば 178回開催(12月末) ○乳児健診でおひさま通信を配布し、利用を勧めている(月1回) ○新規利用者には子育てひろば登録票にてアンケートを実施(随時) ○子育てひろばを利用している保護者を対象にニーズ把握のため一定期間アンケートを実施(H28.7月、H29.1月) ○佐川町、香南市の子育てひろばの視察	○ひろば利用者数 なかよしひろば延2464人 にこにこひろば延904人 (H28.12月末合計延3368人) (H27.12月末合計延2792人)	4	ひろば利用者数はセンター開設以来、最も多かった。アンケートで「ひろばの行事が楽しかった」「親子同士交流できて良かった」などの声が多く寄せられた。	4	 子育て支援センターで 子育てひろばを開催					ひろば利用者の満足度の上昇
4 子育てに関する 相談・援助 (幼保)	子育てひろばでの相談や電話・来所相談で随時相談を受け付けている。また、健康介護支援課と協働で子育て支援センターで月1回育児相談を実施している。	・子育て家庭の孤立化を防ぐための支援に取り組む必要がある。 ・育児相談の内容が多様化しており関係機関との連携の強化が必要である。	子育て家庭の孤立化を防ぐための支援を行う。育児不安を軽減する。	○保育士、栄養士、保健師等専門スタッフによるひろば・電話・来所等での相談(随時) ○育児相談 子育てセンターなかよし・びらふ(1回/月) 大柘保育園 園庭開放(1回/2か月) ○産後早期の親子を対象とした産後サポート事業「ママのサポートルーム」を実施(1回/月) ○子育てセンターを利用していない家庭に対して保育士による訪問支援を実施	○保育士、栄養士、保健師等専門スタッフによるひろば・電話・来所等での相談(随時) ○育児相談 子育てセンターなかよし・びらふ(1回/月) 大柘保育園 (2か月に1回) ○産後早期の親子を対象とした産後サポート事業「ママのサポートルーム」を実施(月1回) ○子育てセンターを利用していない家庭を対象に、保育士による訪問支援を実施	○ひろば随時相談(12月末) なかよし91件、びらふ18件 ○育児相談(1月末) なかよし:延175人 びらふ:延60人 大柘保育園:延9人 ○ママのサポートルーム(1月まで10回開催) 母子 実24組、延べ27組参加 父親参加 1名 延べ人数 1名 1回平均参加組数 2.7組 ○訪問件数 18件	3	ママのサポートルームの実施により、産後早期の不安の強い時期への支援ができたが、今後、より多くの母子に利用してもらいたい工夫していく。訪問支援により、子育てひろばや育児相談の利用などに繋がった。	3	 子育てひろばでの相談 電話・来所などによる相談 育児相談の実施 ママのサポートルームの実施 訪問支援の実施					利用者数の増加 相談件数の上昇
5 地域の子育て関連 情報提供 (幼保)	毎月子育て通信を発行し子育てひろばのイベント情報や子育て情報を提供している。また、さまざまな機会を活用し地域の子育て関連情報を提供・広報活動している。	様々な機会を活用し、子育て家庭へ情報発信している。	子育て家庭への情報発信を継続する。	○「子育ておひさま通信」を発行・配布・ホームページへの掲載(1回/月) ○「楽しい子育て応援します」の配布・ホームページへの掲載(随時) 窓口への設置、乳幼児健診、保健師訪問等さまざまな機会を活用して配布 ○「子育てガイド」を年1回更新し、窓口への設置や関係機関等から配布(転入児の家庭には健康介護支援課で配布) ○「子育てサークルガイド」を発行し、窓口への設置、子育てサークルや関係機関等で配布	○「子育ておひさま通信」を発行・配布・ホームページへの掲載(月1回) ○「楽しい子育て応援します」の配布・ホームページへの掲載(随時) 窓口への設置、乳幼児健診、保健師訪問等さまざまな機会を活用して配布 ○「子育てガイド」を年1回更新し、窓口への設置や関係機関等から配布(転入児の家庭には健康介護支援課で配布) ○「子育てサークルガイド」を発行し、窓口への設置、子育てサークルや関係機関等で配布	○関係機関と連携しながら、子育て家庭への情報発信の継続を実施した ○子育てサークルガイドを改定し、1500部作成した	3	子育ておひさま通信を各所に設置するだけでなく、健診や事業などの機会を利用し、職員が説明しながら配布したことで、ひろばの利用などに繋がった。	3	 子育て通信の発行 地域の子育て関連情報の提供や 広報活動					市内の店舗や公共施設に既に配置し、住民にサービスを認を知ってもらう

<視点>

市民が協働し、ともに支え合い、高め合う地域社会を築きます

(2) 子育て支援と親支援の推進

平成28年度																
取組・事業名	事業の概要	年度当初の現状 (課題等)	具体的な到達目標 (有るべき姿・望ましい状況)	具体的な取り組み (計画・実施)	行動実績	到達目標の達成状況	内部 評価	内部評価根拠	外部 評価	H26	H27	H28	H29	H30	平成30年度末 達成目標	
6 子育てに関する講習会 (幼保)	子育てひろばを活用して、子育てに関する子育て講座や講演会を開催している。	親子の愛着形成や親子と一緒に楽しめる講座、子どもの成長・発達を促す講座等が必要である。	子どもの発達支援を目的とする「親子ふれあいリズム」を実施する。	○子育て講座・講演会の開催 ・親子の愛着形成を目的とした子育て講座の開催 ・子どもの発達支援を目的とした「親子ふれあいリズム」の実施(1回/月) ○ミニミニ運動会の開催 ○県の子育て講座を活用 ○助産師によるふれあいマッサージや小児科医師等による講演会等が外部講師による講演会の実施 ○歯科衛生士による歯科講座(健康増進計画)、栄養士やヘルスメイトによる食育講座(食育推進計画)の開催	○子育て講座・講演会を50回開催 ○県事業を活用し、「親子ふれあいマッサージ」「小児科医師による子育て講演会」「子どもの育ちとおもちゃの関わり」「リトミック」「幼児体育」などを実施 ○ミニミニ運動会、親子ふれあいリズム、つくってみよう、救急救命講習、クリスマス会、歯科講座、食育講座などを実施	計画どおり実施できた	4	親子ふれあいリズムは、参加人数も他のイベントに比べても多く、アンケートでも好評だった。	4						親子に必要な講習やニーズにあった講習を定期的に開催	
7 子育てサークル支援 (幼保)	地域で活動している子育て支援団体とネットワークを構築し、地域全体で子育て支援の基盤づくりをすることを目的に子育てサークル交流会等を開催している。	地域で活動している団体への支援や連携の充実が必要である。	香美市立図書館や、民生委員との連携を強化する。	○子育てサークル交流会を年2回開催 2回目は発達障害に関する研修を予定 ○子育て支援団体のろばみみが開催している「ろばみみ会議」への参加(月1回) ○ろばみみ通信の配布、ハッピーチャイルドレンのちらしの掲示等 ○子育て支援に関する研修会等の案内 ○香美市立図書館と連携し、地域で活動している「山田おはなしの会」の協力のもと絵本の読み聞かせを毎月実施 ○民生委員に子育てセンターを子育て資源として認識してもらうため、周知を図る	○子育てサークル交流会 6/3開催 11/25発達障害に関する研修会 ○子育て支援団体のろばみみが開催している「ろばみみ会議」への参加(月1回) ○ろばみみ通信の配布、ハッピーチャイルドレンのちらしの掲示等 ○子育て支援に関する研修会等の案内 ○香美市立図書館と連携し、なかよしひろばで月1回、ここにひろばで2か月に1回、絵本の読み聞かせを実施 ○ここにひろばの行事へ民生委員や地域の人が参加	○子育てサークル交流会 6/3 サークル4団体、関係機関4団体形20名が参加 11/25発達障害に関する研修会 「誰もが輝いて生きるために」～発達凸凹のある子ども達への理解と支援～ サークル3団体、関係機関4団体計17名が参加	3	子育てサークル交流会により、団体間の親交が深まり、子育てに関する知識の習得も図られた。 子育て支援に関係する団体と連携しながら、親子への支援を充実させた。	3						子育て支援団体とネットワークを構築 ・子育てサークル交流会2回/年 ・ろばみみ会議への参加 ・子育てサークルの通信の配布やちらしの掲示 ・子育て支援に関する研修会の案内 ・絵本の読み聞かせを定期的実施	子育て支援団体間の連携強化
8 一時預かり (幼保)	保育等を利用していない香美市内に住所を有する就学前の児童を対象に、昼間において保育所等で一時的に預かっている。	子育てセンターなかよしでは12月頃から希望者が増え、利用できないケースがある。ただし、緊急預かり等配慮が必要な方は体制を整え可能な限り受け入れしている。	利用できないケースの集計をとり、今後の体制整備を検討する。また、緊急預かり等配慮が必要なケースを柔軟に受け入れする。	○子育てセンターなかよし・びらふで実施(月～金) ○保護者のニーズに対応できるように体制を整備し、可能な限り受け入れに努める ○預かり児の心身の発育・発達を促すよう支援する ○事例検討を定期的に行い、保護者と関わりながら、親子を支援する	○子育てセンターなかよし・びらふで実施(月～金) ○保護者のニーズに対応できるように体制を整備し、可能な限り受け入れに努めている ○預かり児の心身の発育・発達を促すよう支援 ○保護者と関わりながら、職員が連携して親子を支援	一時預かり延べ人数716人 (12月末) (H27年12月末 延612人)	3	利用者が増え、体制を整えながら、昨年度より多くの利用者を受け入れている。	3						保護者のニーズに対応して一時預かりを実施	
9 マタニティママのつどい (幼保)	妊娠・出産・子育てに関する知識や技術を学び、参加者同士の交流によって安心して子育てできることを目的に、妊婦とその家族を対象にマタニティママの集い(両親学級)を開催している。	妊娠期からの子育て支援が必要である。	年3コースを定着させ、適切な時期に受講できるようにする。	○健康介護支援課と協働で、子育てセンターなかよしにて年3コース(1コース3回)実施 ○健康介護支援課が対象妊婦に個別通知し、さらに初妊婦には電話をして周知 ○保健師、助産師、栄養士等専門スタッフによる講話と実技を実施	○健康介護支援課と協働で、子育てセンターなかよしにて2コース終了し、3コース目も終了見込み(1月～2月) ○健康介護支援課が対象妊婦に個別通知し、さらに初妊婦には電話をして周知 ○保健師、助産師、栄養士等専門スタッフによる講話と実技を実施	前期コース:5/13、5/27、6/10 中期コース:9/2、9/16、9/30 参加延べ数 29人(再掲:夫3人) (後期コース:1/13、1/27、2/10)	3	コースの中で1回目の講話を沐浴実習のみにして、内容を充実させた。子育てサービスの紹介や、ひろばの見学により、出産後の子育てサービスの利用にもつながっている。	3					「マタニティママのつどい」を開催 ・子育てセンターなかよしにて年9回実施	利用者数増加	
10 子育てサポート体験 (幼保)	将来親となる高校生を対象に、福祉・看護・保育・子育てに関心を持ってもらうことを目的に、子育てサポート体験を実施している。	H27年度は参加者が減少したため、参加しやすい体制を検討していく必要がある。	できるだけ多くの高校生に子育てサポートを体験してもらうため、参加しやすい体制にする。	○山田高校と連携し、山田高校3年生で福祉・看護・保育・子育てに関心がある生徒を対象に、夏休みを利用して「子育てサポート体験」を実施 ○参加希望者には、複数回の体験もできるようにする。	○山田高校と連携し、山田高校3年生で福祉・看護・保育・子育てに関心がある生徒を対象に、夏休みを利用して「子育てサポート体験」を実施 ○参加希望者には、複数回の体験もできるようにした。	<説明会> 山田高校にて7/13実施 <子育てサポート体験> なかよしひろば:7/28、7/29.8/1 8/2、8/4、8/5、8/8 計17名参加 ここにひろば:7/28、8/4 計3名参加 合計 実18名 延20名 (両ひろば参加生徒2名)	2	昨年度よりは参加人数が増加したが(H27年度参加数9名)、より多くの生徒に、子育てサポート体験に参加してもらえるようにする。	3					高校生に福祉・看護・保育子育てに関心を持ってもらう		

<視点>

市民が協働し、ともに支え合い、高め合う地域社会を築きます

(3) 市民協働で地域の教育力を高める取組の推進

		平成28年度													
取組・事業名	事業の概要	年度当初の現状 (課題等)	具体的な到達目標 (有るべき姿・望ましい状況)	具体的な取り組み (計画・実施)	行動実績	到達目標の達成状況	内部 評価	内部評価根拠	外部 評価	H26	H27	H28	H29	H30	平成30年度末 達成目標
1 学校支援地域本部 事業 (学校)	地域の人が学校教育に係る活動の充実	市の方針や運営方法を検討する運営委員会を立ち上げ、学校ごとの活動内容がさらに充実していくよう取り組んでいく必要がある。	活動のべ人数が昨年度の数を維持またはさらに増加する。(H26 3,073人、H27 3,409人)	・学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てる体制を充実させるために各学校のコーディネーターが中心となってボランティアの調整等を行い学校支援を行う。授業の補助、学習支援、環境整備、学校行事支援、登下校の見守り等の活動を行う。	○高知県地域による教育支援活動研修会(7月4日)に管理職、コーディネーター等11名が参加 ○香美市学校支援地域本部運営協議会(7月4日)では、各校3分程度の取組の発表と協議を行い、効果のある取組、組織作り・組織の活性化等について、情報交換を行った。 ○東部地区教育事務所関係学校支援地域本部事業研修会に管理職、コーディネーター等28名が参加。	活動延べ人数1月末約2,800人	4	東部地区教育事務所関係学校支援地域本部事業研修会における本市から参加の28名は、東部管内最多であり、管理職・コーディネーターの主体性が発揮されている。本年度初めて香美市学校支援地域本部運営協議会の開催ができた。	4	<p>地域の人が学校教育に係る活動の充実 ・学習活動支援 ・学校整備支援等</p>					・学校支援地域本部の活動内容を充実させる。 ・年間3回の学校支援地域本部事業の連絡協議会での実施できた。
2 放課後子ども教室 推進事業 (学校)	放課後子ども教室推進事業	○舟入小・片地小及び中央公民館は継続して実施。鏡野中は同一内容で放課後等学習支援事業に移行することとなった。	○子ども教室の実施を希望する学校があれば、全ての学校で実施を検討する。	○昨年度より新たに舟入小学校・片地小学校で実施することとなり、1週間あたり2～3日程度の開催を継続する。	○子ども教室開設日数：舟入小160日、片地小110日、中央公民館115日	○1日あたりの平均参加児童生徒数 舟入小：25人 片地小：21人 中央公民館：7人	4	○多数の児童が参加して開催することができた。	3	<p>放課後子ども教室推進事業 ①鏡野中、中央公民館 ②各小中学校で実施する</p>					・各校で放課後子ども教室ができてきている(100%) ・子どもの家庭学習の学びの流れが構築され、実施されている(各校100%)
3 コミュニティスクール 事業 (学校)	コミュニティスクール設置に向けて研究を進める	・片地小学校でのコミュニティスクールの設置 ・大橋小・中学校で設置推進委員会継続 ・香長小、楠目小、大宮小・香北中で設置推進委員会立ち上げ	・片地小学校でのコミュニティスクールの充実 大橋小・中学校での研究推進	・片地小学校でのコミュニティスクールの充実に向けた取組みの実施 ・コミュニティスクールに向けての大橋小・中学校での研究推進 ・香長小、楠目小、大宮小・香北中で研究推進	○全小中学校にコミュニティスクール設置推進委員会を設置。 ○先進校視察(徳島県・神谷中学校) ○CSフォーラムへの参加(東京、3名) ○リーフレット・チラシ・カレンダーの作成、配付	○片地小学校のコミュニティスクールの充実(各活動の検討・コミュニティカレンダーの作成) ○大橋小中学校の研究の推進(学校支援地域本部の体制作り・学校運営協議会に向けての準備)	4	○各学校がコミュニティスクールに向けて設置推進委員会を設置。 ○設置推進委員会の開催。	4	<p>片地小学校での研究、実施 他の学校での導入研究推 ・コミュニティスクール事業</p>					・コミュニティスクールがH25年度より増加している
4 放課後児童クラブの 充実 (学校)	児童クラブ充実事業 ・児童クラブ指導員の研修の実施 ・児童クラブの環境整備	○高知県が開催する研修に参加。 ○大橋小学校児童クラブ(もんべえクラブ)新築工事。	○高知県が開催する研修に参加していく。 ○施設整備の推進を検討する。	○放課後児童支援員認定資格研修に人数制限内で参加する ○小学校から離れた場所にあり、専用施設ではない大橋小学校児童クラブ(もんべえクラブ)の新築工事を実施して、専用施設として小学校内にあり、利便性が高く、機能的な施設整備を行う。	○放課後児童支援員認定資格研修及びその他の研修等にも随時参加。 ○大橋小学校児童クラブ新築工事完成。	○放課後児童支援員認定資格研修に参加して6人が認定資格取得。 ○大橋小児童クラブ(もんべえクラブ)新築工事完了	4	○今年度も多数の支援員が認定研修に参加して認定資格を取得することができた。 ○大橋小学校児童クラブ新築工事を年度内に完成させることができた。	4	<p>児童クラブ充実事業 ・児童クラブ指導員の研修の実施 ・児童クラブの環境整備</p>					・放課後児童クラブ指導員の支援力、指導力が向上している ・児童クラブの環境が子どもにとって快適なものとなっている
5 学校評価の推進 (学校)	学校評価の推進 ・学校関係者評価の推進と拡充 ・香美市教育振興基本計画と連動した評価のあり方研究、および評価	学校関係者評価を行い、ほとんどの学校は、意見をアクションシートに示しながら学校経営改善に活かすことができている。	○評価を、PDCAサイクルとして学校改善に活かすことができている	○委員への事前説明、学校とのヒアリング等を行い、計画的な学校関係者評価の実施を行う。	4月計画書の作成、5月に委員とのヒアリング、8月中間検証ヒアリング、1月最終自己評価書を作成・ヒアリング、2月評価者によりまとめ、HPへの公開。その都度、関係者評価委員による学校訪問を実施。	前年度の評価委員からの評価を活かしながら、アクションシートを作成。学校経営計画と並行し、取組を進めることができた。	3	全体的には、学校改善に繋がり、地域からの評価も高くなってきている。一部の学校に対して、PDCAサイクルとして効果的な学校運営を行うよう指摘があった。	3	<p>学校評価の推進 ・学校関係者評価の推進と拡充 ・香美市教育振興基本計画と連動した評価のあり方研究、および評価</p>					・家庭、地域に開かれた計画的評価ができていく ・各校で第3者評価が導入されている ・香美市教育振興基本計画と連動した評価ができていく

<視点>

夢を育み、新たな価値を創造する教育を展開します

(1) 次世代を見通した教育の環境整備と実践

平成28年度															
取組・事業名	事業の概要	年度当初の現状 (課題等)	具体的な到達目標 (有るべき姿・望ましい状況)	具体的な取り組み (計画・実施)	行動実績	到達目標の達成状況	内部 評価	内部評価根拠	外部 評価	H26	H27	H28	H29	H30	平成30年度末 達成目標
1 ICT機器整備 (学校)	ICTの整備とそれを生かした授業の実施 ・ICT活用の授業の推進 ・ICT活用の授業の研究推進 ・ICT活用の交流活動の推進 ・ICT活用の情報発信の推進 ICT整備	・小学校への電子黒板の設置、順次タブレットの導入(wifi環境整備) ・タブレットを使用した授業は行われているが、効果的な使用に至っていない	・市指定校(舟入小、山田小、楠目小、香北中、大栃中)での年2回の情報機器を使った授業公開	○市指定校による情報機器を使った授業公開が年2回行えた ○効果的な使用を行うための情報提供	・山田小でにタブレットを使った公開授業を行い、多くの参加者を得た。 ・計画どおり機器の導入ができた。	・機器等ハード面の整備に伴い、情報機器を用いた授業は、各校で随分と利用されるようになった。 ・タブレットなど個別の指導や意見の集約につながる利用はまだ不十分である。	4	ハード面の整備は計画通り進んでいる。	4	→					・香美市内で均等な教育サービスを受けているか(整備状況に差が無い) ① 電子黒板(全教室) ② タブレット ③ PCまたは学習用スマートフォン(各児童生徒1台) ④ 教員用PC、タブレットPC(全教職員各1) ⑤ スクリーン(各校1)プロジェクター(各校1)が整備されている(100%)
2 情報モラル教育の推進 (学校)	教職員に関する情報モラル教育の実施 児童生徒に対する情報モラル教育の実施	・情報機器の普及に伴い児童生徒のモラルの低さが ・教員の情報モラルについての認識の甘さ	・教員及び児童生徒に対する研修の実施(各校年1回以上)	・教員に対する研修は、保護者も含めた研修の機会をサポート ・児童生徒には、各校が警察や高知工科大学生によるSNS等の研修を推進…工科大学生は3校以上	・市教委主催の研修は、計画できていないが、学校では、教員に対して9校、児童生徒に対して2校行っている。 ・SNSの研修を工科大学生を招いて、3小学校が行った。	・情報モラルの意識を高める研修の場を呼びかけることができた。	4	保護者を含め意識は高まっている。ネット宣言をPTAと共に行うことができた。	3	→					・系統だった情報モラル教育が実施されている ・児童生徒が電子機器の利点について理解し、私用できるとともに脅威についても理解している(100%)
3 情報リテラシー教育の推進 (学校)	教職員へのICTリテラシー研修の推進	・公務をPCで効率よく行うことができない教員が少なくない	・HPの更新 ・日常的に情報機器類が活用できている	・HPの更新状況を確認し、必要に応じて連絡 ・情報機器類の効果的な使用の支援 ・指導要録の電子化	・各校のHPの更新状況を2か月に1回程度確認、随時学校に連絡を入れた。 ・市指定校として、舟入小、山田小、楠目小、香北中、大栃中を指定。大栃中から、本年度の取組の発表があった。	・HPの更新については、学校で温度差がある。学校によっては、技術的な支援が必要である。	3	教職員の技術は向上している。	2	→					・児童生徒に系統だった教育が行われている(100%) ・教職員はワード、エクセル、PP、メールは自由に使用できる(100%)
4 環境教育 エネルギー教育の推進 (学校)	環境教育、エネルギー教育の推進 ・環境教育、エネルギー教育の香美市の教育計画の作成と実施 ・高知工科大学、県立山田高等学校と連携して推進 ・子どもエコクラブ活動、みどりの小道環境日記の活動促進	・小学校では総合的な学習の時間を利用した学習がすすんでいる	・各発表会や作品展への出展	○子どもeco活動交流会への参加 ○コツコツ削減コンテストへの参加 ○みどりの小道環境日記への小学生の出展	○子どもeco活動交流会への楠目小学校、香美市子どもエコクラブの児童参加(1/21) ○みどりの小道環境日記への小学生の出展 ○地方公共団体と連携したCO2排出削減促進事業の実施	○子どもeco活動交流会に楠目小児童29名、香美市子どもエコクラブ児童3名が参加。取組の発表、ポスターセッション等を行い、学習の成果を発表するとともに他市の児童と交流。 ○みどりの小道環境日記に9名入賞 ○地方公共団体と連携したCO2排出削減促進事業において、市内小学生向けの環境学習副読本を作成。啓発リーフレットの作成。環境学習副読本完成の記念講演会の実施。	4	○楠目小は、子どもeco活動交流会に参加することを総合的な学習の時間の計画に位置づけ、探究的な学習のプロセスを重視した取組になっている。 ○みどりの小道環境日記9名入賞は、地元新聞にも写真つきで大きく報道された。 ○来年度から市内全小学校で使用する環境副読本が作成できた。本年度指定したモデル校の総合的な学習の時間の実践が充実したものになった。	4	→					・香美市としての環境教育、エネルギー教育の取組計画ができ、児童生徒が主体的に取り組む環境教育、エネルギー教育が実施されている。 ・高知工科大学はじめ関係機関との教育連携ができてきている。 ・環境教育、エネルギー教育の推進が教育だけでなく、市ぐるみの取り組みとなっている。

<視点>

夢を育み、新たな価値を創造する教育を展開します

(1) 次世代を見通した教育の環境整備と実践

		平成28年度										平成30年度末 達成目標		
取組・事業名	事業の概要	年度当初の現状 (課題等)	具体的な到達目標 (有るべき姿・望ましい状況)	具体的な取り組み (計画・実施)	行動実績	到達目標の達成状況	内部 評価	内部評価根拠	外部 評価	H26	H27	H28	H29	H30
5 学校図書館システム化の推進 (学校)	学校図書システムの推進	・委託業者による導入作業中。	楠目小学校にシステム完備、次年度に向けて随時準備	○楠目小学校に整備し、平成29年度香長小・片地小整備に向けてネット環境と共に準備	楠目小学校の図書システムの後期機種への入替え作業の実施	・本年度の入替え作業完了	5	予定どおり入れ替えが完了した。	5	①	②	③		
6 外国語(英語)教育の推進 (学校)	外国語教育の推進 ・外国語指導助手の配置 ・外国語指導支援員の配置 ・教職員に対する研修の実施 ・外国語指導教材の整備 ・外国人とのふれあい体験活動支援	・【小】外国語活動のねらいに基づいた実践的な取組について十分でない。 ・【中】生徒の授業力向上に向けた授業改善が必要である。	【小】外国語を学ぶのは楽しい(高学年) 85% 【中】高知県学力定着状況調査において平均値以上となる	○先進校視察 ○ALTの増員、外国語指導補助員等の手配、予算や普及 ○香美市版到達度目標とカリキュラムの作成 ○教員の授業改善を目指した研修の充実 ○姉妹校提携に向けた取組(オーストラリア)	○先進校視察 【鳴門市立林崎小学校】 参加教員:15名 【京都市内4小学校】 参加教員:14名 ○ALT及び外国語指導補助員の手配(以下AJTE)など ALT:8名 AJTE:2名 ○香美市版到達度目標とカリキュラム作成検討会 実施回数:5回(教育研究会外国語部会1回を含む) 参加教員:小学校3名、中学校3名、高校3名、大学1名 ○研修会の充実 小学校外国語活動研修会(1回、45名参加) 香美市教育研究会(3回、28名参加) 公開授業研究会(楠目小、大宮小、大柵小) ○姉妹校締結に向けた訪問 イマニエルプライマリースクール訪問(オーストラリア・アデレード)11月	○H28年度香美市外国語意識調査より「外国語の授業が好き」(肯定回答) 小5 78% 小6 73%(参考:73.7% H25) ○英検IBA(全中学校全学年対象) 英検3級以上相当の英語力を有する中学生の割合 香美市38.8%(県指標30%) ○平成28年度「高知県学力定着状況調査」(県平均2月公表予定) ○香美市到達度目標とカリキュラムが完成した。	4	○香美市外国語教育重点校(大宮小・香北中、大柵小・大柵中・楠目小)を中心に、ねらいを持った授業が展開されている。また各校が積極的に公開授業研などを実施し、香美市内全体に各校の取組が広がっている。また先進校視察において、今後の英語教育の方向性を多くの教員と共有できた。今後、香美市全体に伝達する。 ○香美市到達度目標とカリキュラムについて、次年度は検証、修正を行う。 ○イマニエルプライマリースクールとの交流が次年度よりスタートする予定である。	4					

<視点>

夢を育み、新たな価値を創造する教育を展開します

(2) 高知工科大学との連携

平成28年度															
取組・事業名	事業の概要	年度当初の現状 (課題等)	具体的な到達目標 (有るべき姿・望ましい状況)	具体的な取り組み (計画・実施)	行動実績	到達目標の達成状況	内部 評価	内部評価根拠	外部 評価	H26	H27	H28	H29	H30	平成30年度末 達成目標
1 高知工科大学について知る学習の推進 オープンキャンパス事業 (学校)	高知工科大学オープンキャンパス事業 ・小学5年生対象実施 ・中学2年生対象実施	高知工科大学の学生が一部の学校に訪問している。昨年、全小学校が高知工科大学に見学等実施。	全ての小学校で工科大学に行つての学習ができる。	工科大学に行つてみよう(小学生版)を実施、内容の充実	○小学生・・・工科大学内見学、図書館見学、食堂体験、どんぐり拾い、親子で授業体験 ○中学1、2年生 ・キャリアチャレンジデイの実施・講師依頼	工科大学への体験が実施できなかった小学校がある。	3	工科大学の近隣の学校は、年間何回も工科大学に行き学習することができた。しかし、一部の小学校が学習することができなかった。(工科大学に絞らずに、広く香美市の教育資源活用を呼びかけたから)	3						<ul style="list-style-type: none"> ・香美市全中学校で実施(100%) ・高知工科大学への香美市出身者の進学人数が増加している
2 高知工科大学留学生との交流 国際ナショナルデー開催 (学校)	国際ナショナルデー実施 ・小学生対象実施 ・中学生対象実施	留学生や香美市在住の外国人との交流の機会を持つ学校が小学校で増加している。	デイキャンプを実施し、外国人や小中高等学校の児童生徒と交流し、コミュニケーションを図ることの楽しさを感じることができる。	デイキャンプの実施	○デイキャンプの実施 期日:8月8日 参加者:46名(小中高生) 内容:外国の祭りをテーマに屋台を作り、各グループごとに遊びに親しむ。 アンケートより(肯定回答) ・楽しかった(100%) ・英語や外国文化を身近に感じた(98%) ・もっと英語を話したり、聞いたりしたい(93%) *日程の調整がつかず、大学生は参加できず。	大学生の参加者を募ることはできなかったが、小中高生を対象に実施することができた。参加者が46名にのぼり、英語教育への関心の高さが伺えた。	3	参加者は交流を通して、楽しみながら異文化に触れたり、知らなかった英語表現などを知ることができたようである。また校種の垣根を越えた交流や、初対面の人と協力して挑戦することは、キャリア教育の視点からも、上級生の姿から学ぶことが大きかったと思える。	3						<ul style="list-style-type: none"> ・香美市全学校希望者参加で実施できている ・児童生徒の外国語への意欲が高まっている ・多様な文化や民族の違いを感じ、尊重しようとする態度が育っている
3 高知工科大学学生企画による小中学校学習支援活動 (学校)	高知工科大学 学生企画による小中学校学習支援活動	ほとんどの学校で学習、活動支援を受けている。	工科大学による学習、活動支援を継続する。	放課後学習支援事業への工科大学の参加 香美市理科クラブの実施 コラボ企画への工科大学の参加	理科クラブは、小中学生を含む19名のメンバーで週1回山田高校にて実施。主に大学生や退職教員が中心となり、学習を行った。昨年に引き続き、工科大学を市内の3小学校にSNSの講座の講師として招くことができた。学習支援に参加している。	工科大学が積極的に教育活動に関わってくれることで、先輩の姿から将来の自分の姿について考えることができ、子どもたちのキャリア教育の場となっている。	4	工科大学が積極的な関わりを行ってくれた	4						<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の学力が向上した ・香美市全中学校で実施(100%) ・活動そのものが児童生徒のロールモデルとなっている ・高知工科大学に進学者が増加し、その卒業生が香美市で働く、社会貢献するなどの人の流れができる
4 高知工科大学の施設や「知」を活用した連携活動の推進 教職員情報リテラシー研修の推進 例:情報教育担当教員との連携 (学校)	高知工科大学学生による教職員情報リテラシーに関する支援	・公務をPCで効率よく行うことができない教員が多い	・工科大学から講師を招いた研修を行いスキルの向上を図る	・児童生徒には、工科大学生サイカットのメンバーを招いて、研修を行う ・大学から講師を招き、教員研修を行う	・児童生徒には、工科大学生サイカットのメンバーを招いて、小学生や教員を対象に3小学校でSNSの研修を行うことができた。	・教員へに情報スキル向上についての場を設定することはできなかった。コラボ会議等で議題に上げながら、実施に向けた具体的な計画をしていく必要がある。	2	職員に対しての研修は実施できていない。校内研修等により、教職員の技術は向上しているが学校により温度差がある。	2						<ul style="list-style-type: none"> ・香美市の教職員の情報リテラシー力が向上している ・高知工科大学との連携で香美市の児童生徒、教職員の意識、資力が向上している

<視点>

夢を育み、新たな価値を創造する教育を展開します

(3) 生涯を通じた豊かな学びと文化・芸術、スポーツ活動の充実

		平成28年度										平成30年度末 達成目標		
取組・事業名	事業の概要	年度当初の現状 (課題等)	具体的な到達目標 (有るべき姿・望ましい状況)	具体的な取り組み (計画・実施)	行動実績	到達目標の達成状況	内部 評価	内部評価根拠	外部 評価	H26	H27	H28	H29	H30
1 芸術・文化活動の拠点となる市内社会教育施設の活用促進 (生涯)	中央公民館は生涯学習の拠点として、市民の創造的な学習活動の推進を図ると共に、自発的、自主的な奉仕活動を支援することを目的として、 1. 主催事業による研修・学習の場を提供、2. 貸館事業による市民の学習活動の推進、 3. 地区公民館との連携、について取り組んでいる	・公民館においては主催事業の実施と貸館による文化サークル活動の場の提供をしている。 ・美術館においてはアトリエや展示室の貸出により、芸術活動の育成・発表の場を提供している。	各種サークルの活動場所の提供を行い、文化芸術活動の支援と活性化を図る。	・文化協会加入サークルを中心とした利用に加え、主催事業として取り組んでいる人材バンクを利用した市民の新たな活動に対して、部屋の使用料を一部軽減するなど、新規の文化活動サークルの支援を行う事で、施設活用の促進に取り組む。 ・芸術サークルの活動の場としてアトリエ・展示室を提供する。また、文化展や小・中・高校生の作品展示の他、子育て支援サークルの利用においては、使用料の免除等で活用促進をはかり、幅広い層が芸術に触れる場を提供しやすくする。	○公民館 ・人材バンクへの登録者数も当初の目標数20名に対して、現在22名となっている。 ・サークル「クラフトテーブルで遊ぶ会」の発足と文化協会への加入(4名) 科学遊び「ジャンボスライムを作る」(22名) 「オリジナル扇作り教室」(16名) 「バルーンを使って動物や花などを作る」(17名) 「ちぎり絵教室」(11名) 「カンカン帽子作り教室」(8名) 「プラ竹トンボ作り教室」(13名) 「バルーンアート教室」(8名) 「押絵羽子板作り教室」(19名) 「フラワーアレンジメント教室」(17名) 「クラフトテーブルのかご作り教室」(18名) ○美術館 【芸術サークル、展示会へのアトリエ・展示室貸出】 ・絵手紙教室 ・パステル・水彩画教室 ・日本画教室 ・山本洋一郎と絵画教室のいち展 ・パッチワークキルトサークルぼえむ作品展 ・県展70回記念選抜作家展 【文化展】平成29年10月22～23日 【小・中・高校生の作品展示】 ・高知県立山田高等学校第26回芸術三科合同発表会(平成29年1月開催) ・香美市児童生徒作品展(平成29年2月開催) 【子育て支援サークルへの協力】 ・「るぼみみ」が開催する「きっず・あーとぶろじえくと」の作品制作指導、作品解説などへの協力(年11回)	○公民館 人材バンクへの登録者数も当初の目標数20名に対して、現在22名となっている。 ・サークル「クラフトテーブルで遊ぶ会」の発足と文化協会への加入(4名) 科学遊び「ジャンボスライムを作る」(22名) 「オリジナル扇作り教室」(16名) 「バルーンを使って動物や花などを作る」(17名) 「ちぎり絵教室」(11名) 「カンカン帽子作り教室」(8名) 「プラ竹トンボ作り教室」(13名) 「バルーンアート教室」(8名) 「押絵羽子板作り教室」(19名) 「フラワーアレンジメント教室」(17名) 「クラフトテーブルのかご作り教室」(18名) ○美術館 芸術活動支援等について、行動目標に掲げていた内容について全て実施したので、目標は達成した。 【芸術展覧会へのアトリエ貸出】 ・山本洋一郎と絵画教室のいち展(167名入館) ・パッチワークキルトサークルぼえむ作品展(512名入館) ・県展70回記念選抜作家展(2,077名入館) 【文化展】平成29年10月22～23日(917名入館) 【小・中・高校生の作品展示】 ・高知県立山田高等学校第26回芸術三科合同発表会(平成29年1月開催)363名入館 ・香美市児童生徒作品展(平成29年2月開催) 【子育て支援サークルへの協力】 ・「るぼみみ」が開催する「きっず・あーとぶろじえくと」の作品制作指導、作品解説などへの協力(年11回)	3	○公民館 人材バンクの登録者数は目標以上になった。また、新たに1サークルが発足したが、ほかの発足予定のサークルについては来年度以降になるとの連絡を受けている。また、文化協会加入のサークルで、高齢のために活動を休止する団体も出るなど、既存のサークル活動の活性化も課題となっている。 ○美術館 芸術活動支援等について、行動目標に掲げていた内容について全て実施したので、目標は達成した。	3	公民館 人材バンクへの登録者の募集を継続すると共に、登録者の活用について広く広報活動を行っていく	公民館	新たなサークル数を年間2サークル以上発足させるとともに活動の活性化を図る。		
2 民俗芸能や伝統行事を後世に残す取組の推進 (生涯)	・無形民俗文化財を保存し、継承する団体への補助 ・芸術祭(文化展)オープニングセレモニーを依頼するなど、公開を促進	市指定無形民俗文化財で、10年以上公開が行われていないものがある。	市無形民俗文化財の掘り起こしと、新たな保存会の設立	・民俗文化財の伝承者と協議し、保存会の設立に向けて人材を集める。	・28年9月に、伝承者及び協力者と協議する。 ・物部支所で保管されている物品の状況を確認 ・来年度の芸術文化振興基金助成に応募し老朽化した物品の購入及び伝承教室開催を検討する	・新たな保存会設立は、29年1月末日を予定している。 ・人材については、香美市外在住の方も多く、充分な人材は集まっていない状況だが、今後は市内で活動し、徐々に広報を充実させ確保に努める	3	保存会の設立はほぼ確定しており総会を開き承認を得た段階で目標は達成されるため	3	公開と活用 保存会設立	公開と活用は定例日に実施する以外にも実施 新たに1団体を発足させ、無形文化財の保存と継承を行う			
3 生涯スポーツの推進 (生涯)	・各種大会やスポーツイベントを開催する事により、スポーツに興味を持ってもらえる場を提供する。	・各種大会において、参加チームや選手の固定化がみられる。 ・スポーツに取り組むきっかけがない。	スポーツ関係団体と連携して大会やイベントを開催することにより、幅広い年齢層へのスポーツ活動の普及を目指す。	・香美市体育大会や軽スポーツ大会等日頃から体育活動が行われている各種大会を開催する。また、スポーツに取り組むきっかけとなるよう、ファミリースポーツフェスティバルや体力テストを行う。新たに近隣市町村と連携したエリアネットワーク事業を行う。 ・宝町テニスコート改修工事・トイレ棟改築工事の施工等、スポーツ施設の利用環境整備を計画的に進める。	香美市体育大会:8種目・418名 香美市軽スポーツ大会:3種目・145名 市主催大会等:6大会・952名 県主催大会 県民スポーツフェスティバル:17競技・173名 市町村対抗駅伝競走:2チーム・23名 体力テスト:67名 ファミリースポーツフェスティバル:約240名 エリアネットワーク事業:13回・285名 合併10周年記念事業香美市スポーツ少年団交流大会:6種目・約535名	香美市体育大会や軽スポーツ大会、市主催大会、県主催大会等は種目によって多少の増減はあるものの総合的には例年並みの参加者が得られた。体力テストやファミリースポーツフェスティバルは声掛けやPR等の効果があつて過去最高や2審目に多い参加者が得られた。 エリアネットワーク事業や合併10周年交流大会は今年度の新規事業であったが、そこそこの参加者があり、ある程度の効果はあった。 テニスコート改修により、平日の新規利用者が増えてるが、土・日は現利用団体に年度当初の許可の関係で利用できていない。	3	体力テストやファミリースポーツフェスティバルは例年より参加者は多く、新規事業についてもある程度の効果はあったが、日頃から体育活動が行われている大会等の参加人数は伸び悩んだ。 テニスコートは改修による新規利用者が増えたが、土日は定期的な利用団体との調整が今後の課題である。	4	広報やホームページによる各事業のPR 利用団体と調整を取りながら、スポーツ施設の利用促進により利用者を増やす	改修・改築後の施設の利用促進により利用者が増やす			

<視点>

夢を育み、新たな価値を創造する教育を展開します

(3) 生涯を通じた豊かな学びと文化・芸術、スポーツ活動の充実

		平成28年度													
取組・事業名	事業の概要	年度当初の現状 (課題等)	具体的な到達目標 (有るべき姿・望ましい状況)	具体的な取り組み (計画・実施)	行動実績	到達目標の達成状況	内部 評価	内部評価根拠	外部 評価	H26	H27	H28	H29	H30	平成30年度末 達成目標
4 公民館活動の活性化 (生涯)	・成人教育においては市民大学、市民セミナー、パソコン教室を実施し、青少年教育においては子ども教室の事業を実施している。	・市民大学においては市民に時期や回数などが定着し、講演内容・受講券発行についても検討していく必要がある。また、市民セミナーやパソコン教室においても内容に変化を持たせながら実施していく必要がある。本年度新たな事業としては成人対象の英会話教室を企画・実施する。	・市民大学(1000人以上)、市民セミナー(500人以上)、パソコン教室(250人以上)、子ども教室(1300人以上)、成人英会話教室(150人以上)	・成人教育においては市民大学(講演)を4講座、市民セミナー(講座・教室)を10講座、パソコン教室を2講座(各8回)、英会話教室を3講座(各8回)を実施する予定。また、人材バンク(まちの先生)の登録者数もさらに増やすための取り組みをする。登録者を活用した教室についても積極的に進めていく。 ・青少年教育については、特に人気のある子ども英語教室を新たに物部、香北地区でも実施する計画である。 ・地区公民館については、各公民館が特色のある事業を実施できるよう、研修会や情報交換会なども実施していく。	・市民大学(文化講座、健康講座、環境講座、人権講座) ・市民セミナー(演劇鑑賞、ものづくり教室(5回)、文学講座、市民セミナー祭り、塩の道ウォーキング、フラワーアレンジメント教室、オカリナ演奏会) ・パソコン教室(初級ワード教室、初級エクセル教室) ・英会話教室(初めての英会話) ・子ども教室(子ども将棋、子ども公民館、子どもこーらす、英語教室(低・中・高学年、物部、香北教室)子どもパソコン教室、料理教室、スポーツ教室、野外活動、書初め大会、折り紙教室、バルーンアート教室) ・地区公民館長主事会の開催	・市民大学(4講座:延べ1,023名) ・市民セミナー(11講座:延べ457名(1/30現在)) ・パソコン教室(2講座:延べ192名) ・英会話教室(2講座:延べ40名)(2講座目は2月実施予定) ・子ども教室(開催回数130回:延べ1,086名1/31現在) ・館長主事会(12地区公民館:3回)	3	市民大学は初めて指定席の整理券を発行したため参加者もゆとりを持って受講できた。また、市民セミナーも子どもとの事業と共催の事業を実施したり市外での講演を聴講に行くなど新しい試みをしてきた。英会話教室については当初の計画を少し変更し、回数を少なくしたため目標数には届かなかった。	4						・講演や教室においては市民のニーズの高い内容を実施している。 ・多方面の教養、体験の事業が常に市民に提供されている。
5 図書館活動の充実 (生涯)	①図書資料の収集 ②イベントの開催 ③学校や読書ボランティアとの連携	・分館の利用者数の減少 ・イベント等の参加者数があまり伸びていない。	・利用者増に向けてのPR、資料の充実と環境整備 ・図書館に親しみをもってもらえるようなイベントづくり	・利用者が必要とする資料を充実させ、展示等を行って手に取りやすい環境づくりを行う。また、図書館利用を促進するための広報活動や学校等への働きかけを行う。 ・香美市10周年記念事業の一環として、香美市立図書館マスコットキャラクターの募集と例年開催している「3館合同図書館まつり」の拡大版を実施する。	・香美市立図書館マスコットキャラクター募集およびキャラクター決定 ・「3館合同図書館まつりスペシャル」開催 ・小学校への出前教室の開催および図書館案内の配布 ・大活字本コーナー設置(普通の本では文字が読みづらい方のため) ・本の装飾教室開催(一般向けイベント) ・「英語で楽しむクリスマス会」等のイベント開催。	・マスコットキャラクターについては、応募が全国から630点あり、予想以上の応募となった。また、図書館まつりは、約200人の来場があった。 ・小学校低学年を対象とした図書館についての出前教室や香美市内の保育園、幼稚園、学校への利用案内の配布により、子どもの図書館利用につながった。 ・大活字本コーナーは、高齢者に好評であった。 ・これまで子ども向けイベントが多かったが、今年度初めて一般向けのイベント(本の装飾教室)を開催し、好評を得た。	3	館内の環境づくりについては課題が残っているが、計画していた事業は行うことができ、想定どおりの成果が得られた。	3						・読書率および図書館利用率の向上 ・図書資料を充実させ、学校やボランティア団体等との連携を行い、読書環境が十分に整備されている